



キッチンから、笑顔をつくろう

# Cleanup Report

サステナビリティレポート2020



# contents

---

## ■ トップメッセージ ……2

## ■ 経営理念 ……3

## ■ 経営思想 ……4

## ■ 特集 SDGs ……5

### G (ガバナンス)

## ■ ガバナンス ……10

コーポレート・ガバナンス

内部統制

コンプライアンス／リスクマネジメント

### S (社会)

## ■ 労働慣行 ……13

働きやすい職場づくり

人材育成

ダイバーシティ&インクルージョン

健康経営／労働安全衛生

## ■ 公正な事業慣行 ……17

CSR調達

## ■ お客さま満足 ……19

品質保証

お客さまとの接点

## ■ 社会的役割 ……21

社会とのかかわり

### E (環境)

## ■ 環境報告 ……23

環境方針／環境保全活動推進体制

事業活動に伴う環境課題

マテリアルバランス

環境計画の目標と成果

環境活動

廃棄物対策・資源の有効利用

梱包負荷低減

環境会計

環境教育・保安防災

### S&E (社会・環境)

## ■ 社会・環境に配慮した製品づくり ……32

クリナップのものづくり

環境への配慮

健康への配慮

## ■ 第三者意見 ……37

## ■ 会社概要 ……38

### ■ 編集方針

本レポートは、2005年に「環境報告書」として発行以来、記載内容の充実を図ってきました。

2017年版からクリナップの社会的な活動の取り組みを開示するためタイトルを「社会・環境報告書」に変更し、2019年版は「サステナビリティレポート」としてリニューアルしました。

持続可能な社会への当社の取り組みをESG(環境、社会、ガバナンス)の観点から、紹介しています。

### ■ サステナビリティレポートの範囲

報告する対象期間／ 2019年4月1日から2020年3月31日を基本としていますが、一部それ以前のもの、および本レポート発行直近のものも含んでおります。

報告するデータ／ 2015年度から2019年度までの5年間のデータを基本としていますが、一部該当しないものもあります。

報告する対象組織／このレポートの対象組織は下記の通りです。

●クリナップ株式会社:本社／いわき部門／生産工場(四倉工場、鹿島システム工場、鹿島工場、湯本工場、岡山工場)

●関連会社:株式会社クリナップステンレス加工センター(野田工場、鹿島アート工場)／クリナップロジスティクス株式会社／クリナップテクノサービス株式会社／クリナップキャリアサービス株式会社／クリナップハートフル株式会社／クリナップソリューション株式会社

参考ガイドライン／このレポートは環境省「環境報告ガイドライン2018年版」「環境会計ガイドライン2005年版」、社会的責任に関する国際規格「ISO26000」、「GRIスタンダード」を参考にしています。

### ■ 問い合わせ先

法務・監査部 環境ISO推進課

Eメール grp.kankyou@cleanup.jp

# 企業理念「家族の笑顔を創ります」 ～実現に向けて～

クリナップの創業は1949年。長年にわたりキッチンをはじめとする水まわり商品をつくり、家族の暮らし方の変化に合わせた暮らしやすさの提案とともにお届けしてきました。そして私たちは、その原動力となる企業理念を強く意識した活動を続け、2019年に創業70周年を迎えることができました。

“私たちは何のために存在し、企業活動を続けるのか”。この基本となる考えを表すのが企業理念「家族の笑顔を創ります」であり、クリナップの企業活動のすべてが、この理念の実現に向けられています。創業から70年以上の歳月を経て、今なおクリナップが存続していただけるのは、社会に生かされ必要とされてきたからこそであり、その謙虚な心なくして、私たちの未来はないと考えています。

昨今、気候変動をはじめとし、混迷する経済など社会課題はますます複雑化し深刻化してきております。最近においては、新型コロナウイルスの感染拡大によってもたらされた生活様式の変容など生活者の意識も大きく変化しており、こうした変化を受けて、企業が果たすべき責任はますます大きく、重要になってきています。企業にとって、事業における利益の最大化は重要な経営目標ですが、それと同時に、社会課題の解決に向けて自らの事業を通じて取り組むことが非常に重要となっています。当社が引き続き、社会から認められ必要とされる企業であり続けられるよう、これからも企業理念を核に、しっかりとした事業基盤の構築とそれらの更なる深化・進化を推し進め、「変革と創造」をもって「新たなクリナップ」づくりに挑戦してまいります。

全社員が過去のやり方にとらわれず、新たな取り組みを自ら考え、必ず成し遂げるという強い意志を持ち、果敢に行動することで、社会の求める課題解決に資する貢献ができるものと信じています。そして企業理念を忘れず、企業活動の中の社会性や文化性をより高めていくことで、皆さまから必要とされ、自らの家族や社会に誇れる企業となっていくことをこれからも目指してまいります。

本レポートは、昨年「サステナビリティレポート」としてリニューアルいたしました。ESG（環境、社会、ガバナンス）の観点から、持続可能な社会の実現に向けた当社の取り組みを紹介していますので、ご一読いただければ幸いです。

代表取締役会長  
井上 強一



代表取締役 社長執行役員  
竹内 宏



# 経営理念

2009年の創業60周年に制定した企業理念「家族の笑顔を創ります」を胸に、これからも社員一人ひとりが変革をはかり、  
ここを一つにして、クリナップを創造していきます。

## 創業者理念「五心」

### 一、創業の心

我々は一家一族の精神に則り喜びも  
苦しみも煩ち合い永遠に発展する会  
社をつくらねばならぬ。

### 一、親愛の心

親愛の心は家庭・企業・社会の基で  
ある。人との心の繋がりを大切に、  
信頼し努力しあって生きよ。

### 一、創意の心

創意・開発は我が社の生命である。  
この心を忘れることなく会社の繁栄  
をはかり社会に貢献せよ。

### 一、技術の心

新たな市場の創出のため、広く技術  
を内外に求め集約せよ。そして技術  
を生む知恵を磨け。

### 一、使命の心

我が社の使命は社業を通じ社会に奉  
仕することにある。常に感謝の心を  
忘れることなく邁進せよ。

## 企業理念

### 「家族の笑顔を創ります」

この理念は、クリナップが現在あるい  
は将来実践する活動の方向性や領域、提  
供する価値、使命などを凝縮しています。  
全社員で共有し実践すること、本当の笑  
顔を創り上げお客さまや家族、そして社  
会へと拡げていくことを意味します。私  
たちクリナップは、これまでの「五心」  
に代表される経営信条等を精神的規範と  
して忘れることなく、持っている力全て  
を結集し、変革に挑戦し続けます。

創業者理念  
「五心」

企業理念  
「家族の笑顔を創ります」

### 行動理念

1. 私たちは、心豊かな食・住文化を創ります
2. 私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます
3. 私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

ブランドステートメント  
「キッチンから、笑顔をつくろう」

事業としては「キッチンダントツNo.1」をめざす  
お客様に対しては「キッチンの代名詞」としての評判をつくる

### 活動方針

## ブランドステートメント

### 「キッチンから、笑顔をつくろう」

クリナップの評判をつくるメッセージは、  
「キッチンから、笑顔をつくろう」です。このブ  
ランドステートメントのもと、キッチン分野で  
絶対的なポジションを目指します。

「キッチンと言えばクリナップ」のブランドイ  
メージをより強固なものにしていきます。

企業理念「家族の笑顔を創ります」を胸に、  
社員一人ひとりが変革をはかり、ここを一つ  
にして、新しいクリナップを創造していきます。  
日本で一番大切にされる会社。一番愛される会  
社。そして一番誇れる会社を目指します。

## 行動理念

「私たちは、心豊かな食・住文化を創ります」

「私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます」

「私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります」

「心豊かな食・住文化を創る」とは、注力すべき事業領域と提  
供価値を示しています。当社は、従来からキッチンを中心として、  
事業を営んできました。キッチンは、私たちの生活の中で食と住  
の交点にあります。おいしいもの、こころのこもったものをつく  
り、食べ、そして語らい、すぞす。家族が家庭を実感するひと時です。  
クリナップは、キッチンこそが家庭づくりの核であると考え、笑  
顔が絶えない家族形成に貢献できる価値の提供に尽力します。

## CPS (Cleanup Production System)

### ■ 基本的な考え方

市場や経済の変化にも柔軟に迅速に対応できる企業体質を構築するために「あらゆる無駄を排除することによって経営効率の向上を図る」ことを基本思想としております。

また、「モノづくり」の発展の要は「ヒトづくり」にあると考え「モノづくり」の現場でいかなる困難にも力を発揮できる人材、環境や条件を整備することができる人材を育成することもCPSの重要な目的としております。これら「改善活動」と「人材育成」の推進を通じて企業体質の強化を実現するとともにお客さまにご満足いただける「品質」「納期」「価格」「サービス」をご提供できる強い経営体質を追及しております。

#### ① 営業／開発

全国に展開する営業担当者やショールームアドバイザーによって、お客さまからのニーズや課題が毎日吸い上げられ、開発や製造、取付・設置の各部門にフィードバックされています。

ここで得られた知恵やノウハウ、さまざまな情報は、高度なセキュリティを誇る情報システムに集約され、商品や業務の質の向上に役立てられています。

#### ② 製造

お客さまからの注文情報は年間数十万件におよびます。そのすべてが、お客さまごとに発行される「生産指示カード」で把握され“世界にひとつのキッチン”がつくられていきます。

効率的な生産システムのなかにあって、人の手による高い技能を必要とする「クラフツマン（熟練工）シップ」が活かされている商品も多く、他社にない独自機能や高い意匠性を実現しています。



#### ④ サポート／リフォーム

#### ⑤ コミュニケーション

キッチンやシステムバスルームは数十年間、家族とともに年を重ねていきます。ガスや電気機器などを常に安全、快適にお使いいただくためには、専門家による点検や迅速な修理・部品供給が不可欠です。近年はリフォームに関する需要も増加傾向にあり、これらのご要望にも応えられる体制が必要になってきています。

私たちクリナップは、商品をご購入いただいたお客さまとのコミュニケーションを絶やさず、いつでも信頼していただけるサービスのご提供を目指しています。

#### ③ 物流／取付・設置

クリナップグループには、工場で完成した商品をより早く、確実にお客さまのもとへお届けする物流関係会社「クリナップロジスティクス株式会社」と、商品の取付・設置や各種サポート、メンテナンス業務を行う関係会社「クリナップテクノサービス株式会社」があります。

年間数十万セットにおよぶご注文商品をご希望の納期にお客さまへお届けできるのも、グループ一体で技術品質やサービス向上に努めている結果です。

## 「家族の笑顔を創ります」を目指して CSR活動を推進しています



新型コロナウイルスの世界的感染症拡大は、社会経済に大きな影響を及ぼしており、当社を取り巻く経営環境にも一段と厳しさが増えています。同時にわたしたち生活者の価値観や意識・行動にも大きな変化の波が押し寄せています。

この変化を受けて、社会に生かされ必要とされてきた当社には、事業を通じた社会課題解決に貢献する責任と使命が課されてきています。それに応えることは当社の経済的価値はもちろん、社会的価値も同時に高めていくことにつながり、持続的な成長の達成に必須であるものと考えます。

近年、ESG経営という概念やSDGsがいたるところで見かけるようになってきました。この広がりや象徴されるように、持続可能性（サステナビリティ）という概念が社会に定着しつつあり、コロナ禍を契機に、より顕著になってきたと感じております。

当社の企業理念である「家族の笑顔を創ります」はESGへの取り組みやSDGsと根底を同じくする普遍的なものであり、企業理念実現に向けた活動が当社におけるCSR活動の本質であると考えます。

クリナップグループは、CSR活動を通じて、持続可能な社会の構築を目指すSDGsへ積極的に取り組み、社会課題の解決に貢献してまいります。

ESG・・・環境：Environment、社会：Social、ガバナンス：Governance  
SDGs・・・持続可能な開発目標：Sustainable Development Goals



取締役 副社長執行役員  
小島 輝夫

SDGs とは

## SDGs (持続可能な開発目標) 17 の目標



SDGsとは、2015年国連で採択された「持続可能な開発目標」の略称です。将来、持続可能な消費や生産を営むために、さまざまな社会的課題を解決するための、すべての国、政府、企業、地域社会に求められている具体的な行動目標です。2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットから成っており、将来のあるべき姿が描かれています。

当社でもSDGsを事業や経営に組み入れ、目標達成に向け取り組んでいます。

### CSR方針

#### ● 基本的な考え方

企業理念「家族の笑顔を創ります」を一步一步実践していくことがクリナップグループの考えるCSRです。「家族の笑顔」を実現するためにクリナップグループはCSR活動に取り組んでまいります。

#### CSR方針

私たちクリナップグループは、企業理念「家族の笑顔を創ります」のもと、当社を取り巻くさまざまなステークホルダーの皆さまとの関係を重視し、すべての事業活動においてCSR活動を推進し、社会の持続可能な発展に貢献します。

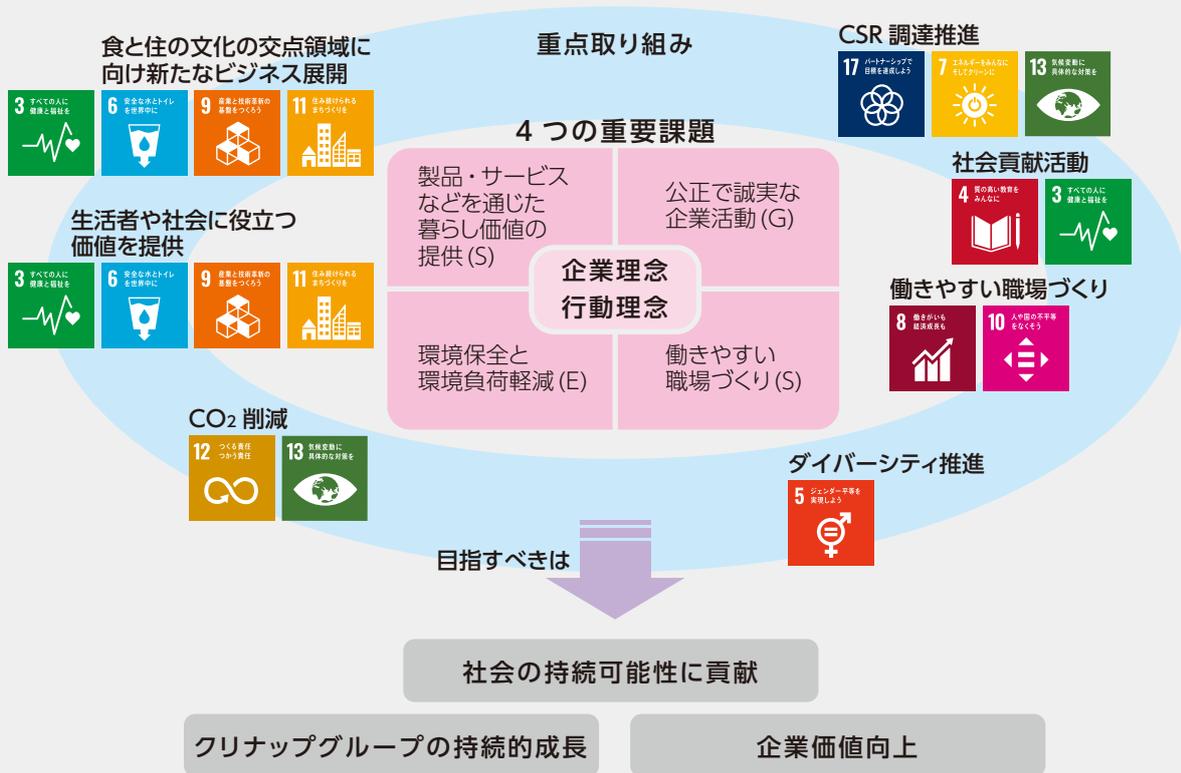
1. 私たちは、「心豊かな食・住文化を創る」という理念のもと、信頼され、感動していただける安全で高品質な商品とサービスをもって、お客さまと社会に新たな価値を提供します。
2. 私たちは、社会性、文化性を持って積極的に地域社会と関わりを持ち、地域の発展に貢献します。
3. 私たちは、常に環境にやさしい事業活動を行い、環境負荷の低減、環境保全などに努め、地球環境との共生を図ります。
4. 私たちは、法令、規制要求事項を遵守し、公正で誠実な事業活動を貫くとともに、社員一人ひとりが「クリナップグループ行動基準」のもと、自らを律し、高い倫理観を持って行動します。
5. 私たちは、人権を尊重するとともに、社員が健康的に安心して働くことができ、多様な人材が活躍できる職場環境や企業風土の実現に取り組めます。
6. 私たちは、公正、自由、透明な競争原理を持って、互いに理解しあい、信頼関係を築くことに努め、サプライチェーン全体でのCSR推進に取り組めます。

2019年4月1日

## 重要課題 (マテリアリティ)

### ■ 4つの重要課題(マテリアリティ)と重点取り組み

クリナップグループは、2020年にCSR活動を推進するうえで、ステークホルダー視点を取り入れた社会のニーズに対し、当社グループが取り組むべき4つの重要課題(マテリアリティ)を特定しました。さらに重要課題(マテリアリティ)を解決するための施策として7つの重点取り組みを定め、当社グループの持続的成長と企業価値向上につなげてまいります。この取り組みが「家族の笑顔を創ります」の実践活動であり、持続可能な社会の実現を目指します。



### ■ 重要課題(マテリアリティ)の特定手順

**STEP1**  
課題の把握・整理

社会的課題および当社事業活動からの課題を把握・整理する。

**STEP2**  
重要度の評価

課題の整理を行い、それら課題について重要度を評価する。

**STEP3**  
課題のマトリックス化

重要度を判定したらそれをマトリックス化する。

**STEP4**  
重要課題の決定  
取り組み内容の検討

優先すべき重要課題(マテリアリティ)を決定する。  
重要課題から全社での取り組み内容を明確にする。  
決定した重要課題(マテリアリティ)に対し関連性が高いSDGs目標を特定。

重要課題  
(マテリアリティ)

	■	■	■
■	■	■	■
■	■	■	■

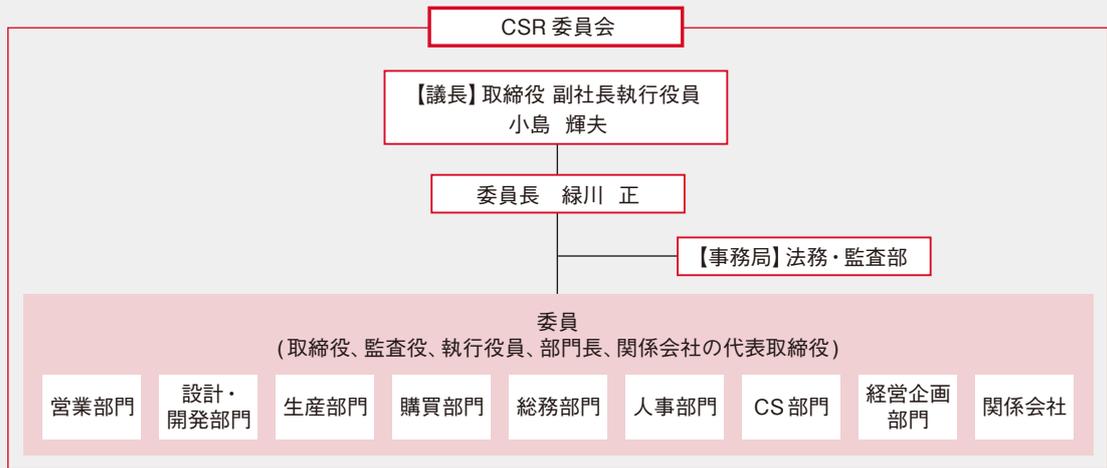
↑ 社会重要度

→ 当社重要度

# CSR 委員会 / ステークホルダーエンゲージメント

## CSR委員会

クリナップグループはCSR活動に対する全社的な意思決定を行う会議体として、「CSR委員会」を設置しました。グループ全体のCSR活動の方向性や目標設定、重要なCSR活動の進捗管理などを検討・推進しています。



## ステークホルダーエンゲージメント

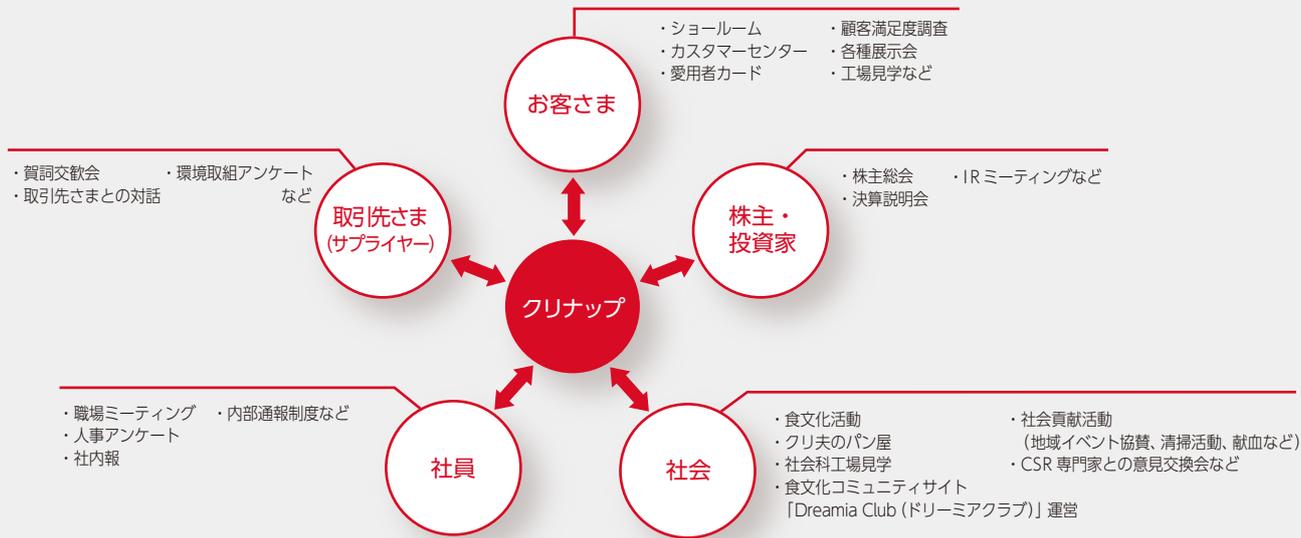
### ● 基本的な考え方

クリナップの主なステークホルダーは、「お客さま」「取引先さま (サプライヤー)」「社員」「株主・投資家」「社会」などです。これらステークホルダーの皆さまとさまざまな機会を通じてコミュニケーションを深め、信頼関係と協働関係を築いていきたいと考えています。

### ● ステークホルダーエンゲージメントへの取り組み

「お客さま」には、ショールーム、カスタマーセンター、各種展示会を通じて頂戴したご意見やご要望を商品やサービスの改善などに役立てています。「株主・投資家」の皆さまには、適時適切な情報開示とともに株主総会や決算説明会などでコミュニケーションを図っています。取引先さまには、賀詞交歓会やお打合せなどを通じて、日頃から対話を行っています。

今後もステークホルダーの皆さまと課題や期待に応えていけるよう、ステークホルダーエンゲージメントに取り組んでまいります。



コロナ禍の取り組み

クリナップグループは、新型コロナウイルス感染症罹患防止のため、お客さま、取引先さま、社員およびその家族の安全を最優先とし、テレワーク推進やショールームの臨時休館などの取り組みを行いました。

本社・事務所



4月。新入社員の入社式や辞令交付をオンラインで実施



6月。来客規制を緩和するも、受付にはアクリル板を設置

ショールーム



アドバイザーもお客さまもマスク着用でご案内



来場者には手指消毒徹底のご協力を呼びかけています

工場



向かい合わせのデスクにはアクリル板を設置 (写真は岡山工場)



事務所の受付カウンターでも消毒促進

年月	社会のできごと クリナップの主な施策
2019年	12 中国の湖北省・武漢市にて原因不明の肺炎患者確認
	1 日本人初の感染者発表 政府が対策基本方針発表 首相が大規模イベント自粛を要請
	2 ショールームでのキッチンスタジオ貸し出し・イベント休止 首相が全国の学校に臨時休校要請
	テレワーク推進を開始 WHOがパンデミック認定
	3 東京五輪1年程度延期決定 北海道と都市部のショールームで臨時休館や予約者のみ対応開始
2020年	4 政府による緊急事態宣言(7都府県対象) 臨時休館や予約者のみ対応、入館制限など全国のショールームへ拡大 緊急事態宣言(全国へ拡大) 全国のショールーム 臨時休館
	5 事前予約制電話相談「テレショールーム」開始 緊急事態宣言解除(39県) 制限つきでショールームを順次開館 緊急事態宣言解除(全国) 全国のショールーム開館(一部制限付き)
	10 「オンラインショールーム」開始 ※20ページの「お客さまとの接点」参照ください

VOICE

コロナ禍の対応について

新型コロナ感染拡大を受けて、クリナップグループは、社員とその家族、お客さま・取引先さまなど全てのステークホルダーの皆さまの健康と安全確保が最重要課題と捉えております。そのような中で、当社製品をお求めいただくお客さまに対し、継続的に商品が供給できるよう、感染拡大防止の取り組みを徹底し、事業活動を行っております。

例えば、一部の事業範囲で進めていたテレワークもコロナ禍においては一気に間接部門への展開を広げるなど、さらには、対面で行われていた会議を、Web会議に切り替えるなど働き方も大きく変化してきています。

そして、新型コロナ感染拡大はSDGsの到達目標に対し悪影響を及ぼしており、よりハードルが高くなり、ゴールが遠のいた感があります。しかし、SDGsが社会・企業の持続的な成長を叶える指標であれば、今後より一層、重要度が高まり取り組みが加速されるものと考えます。当社においても、着実に取り組みを推進して行きたいと考えます。



CSR委員会 委員長  
緑川 正

# コーポレート・ガバナンス

## ■ 基本的な考え方

クリナップグループは、企業理念である「家族の笑顔を創ります」をはじめとする経営理念体系の実践により、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図り、企業としての社会的責任を果たすための取り組みを行っています。

2015年に「クリナップグループ コーポレート・ガバナンス基本方針」を定め、以下の基本的な考え方にに基づき、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組んでいます。

- (1) 株主の権利を尊重し、株主の実質的な平等性の確保に努める。
- (2) ステークホルダーとの適切な協働を図る。
- (3) 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
- (4) 取締役会による業務執行機能を実効化する。
- (5) 株主との間で建設的な対話を行う。

## ■ 取締役会の役割・責務

取締役会は、企業理念などを軸とした経営戦略や経営計画をはじめ、企業戦略などの方向性の決定および取締役の職務執行の監督をしています。また、社内規程により、取締役会で決定すべき事項を予め定めており、重要な業務執行にかかわる決定は、取締役会で審議、決議しています。それ以外の事項については、業務執行取締役の職務権限範囲を予め定めることで明確にしています。

当社は、経営陣および支配株主からの高い独立性を持つ社外取締役を2名（うち女性1名）選任し、それぞれの専門分野における豊富な経験と幅広い知見に基づき、外部からの経営の監督と助言を行っています。

さらに、年に1回、取締役会全体の実効性について評価・分析を行い、更なる改善に取り組んでいます。

また、経営の迅速化および業務執行に関する責任と権限の明確化を図るため、取締役会の決定に基づき、業務執行を行う機関と

して執行役員制度を導入しています。執行役員の他、取締役および監査役の代表者にて構成される執行役員会において、取締役会の決定の通知と執行役員による業務執行の確認をしています。

## ■ 監査役および監査役会の役割・責務

監査役会は、経理部門出身または取締役経験のある監査役2名とそれぞれが高い独立性を持つ弁護士または公認会計士の社外監査役2名の計4名で構成されています。各監査役は、それぞれの分野において専門性の高い知識と豊富な経験を有しており、それらの知識や経験を活かし、取締役の職務の執行について監査を実施し、また、経営全般の見地から取締役会および経営陣に対して適切に意見を述べています。さらに、社内の経理部門、内部監査部門との連携や当社の会計監査人である監査法人との「会計監査人連絡会」の開催など、積極的な情報共有を行っています。

## ■ 独立役員

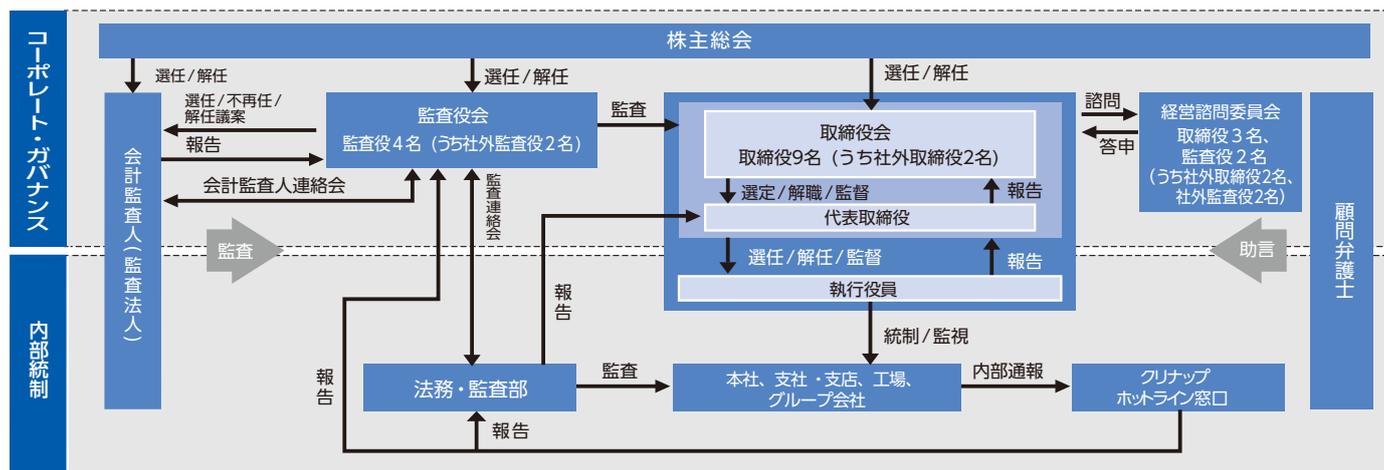
当社は、社外取締役2名および社外監査役2名の社外役員全員を、当社の定める「社外役員の独立性に関する判断基準」に基づき、「当社の一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員」として認定するとともに、東京証券取引所に対し、同取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

## ■ 経営諮問委員会

当社は、コーポレート・ガバナンス体制のより一層の強化を図るために、2019年10月に経営諮問委員会を設置しました。

経営諮問委員会は、社内取締役1名、社外取締役2名、社外監査役2名で構成された取締役会の諮問機関です。必要に応じて臨時に開催され、取締役会から諮問を受けた事項などの審議、取締役会への答申を行います。

## ■ コーポレート・ガバナンス体制図



# 内部統制

## ■ 内部統制システムおよびリスク管理体制の整備

クリナップグループは、「クリナップグループ内部統制システムの整備に関する基本方針」に基づき、グループ全体の業務の適正を確保するための体制の整備に取り組んでいます。

当社のリスク管理体制は、内部統制をはじめ、内部監査、監査役監査、会計士監査などが連携し、重大なリスクの発生またはそのおそれが生じた場合には、取締役会に報告され、速やかに是正措置が講じられる体制が整備されています。

さらに、製品安全、安全衛生、環境保全、情報セキュリティおよび雇用などの各部門の所管業務に付随するリスクの管理につきましては、担当取締役のもとに管理体制を整備し、リスクの発生や拡大防止に努めるとともに、発生またはそのおそれがある場合には直ちに代表取締役に報告する体制を整備しています。子会社についてはグループ全体の業務の適正を確保するため、その管理に関する社内規程を定め、子会社に事業の経過、財産の状況およびその他の重要な事項について、定期的に当社への報告を行うことを義務付けています。

## ■ 内部統制の体制

内部統制の体制は、内部統制委員会のもと、全社活動として内部統制システムの整備および運用課題の改善に取り組んでいます。統制活動に係る評価を、各業務の管理部門が、監査役、会計監査人、内部監査部門と連携して行っています。また、評価の結果を共有し、一元的に取り扱うことで、全社的改善につなげています。

## ■ 内部監査

当社の内部監査は、内部監査部門が担当し、担当取締役が承認した年度計画に基づき、子会社を含めた当社グループの事業所に対し、業務の適法性および妥当性の両面から監査を実施しています。その結果を代表取締役および担当取締役並びに監査役に報告しています。また、課題改善についての提言や、改善の状況についての確認などを適宜行っています。

## ■ 監査役監査

当社は、監査役による監査の実効性を高めるため、監査役が、取締役会や執行役員会などの重要な会議に出席するなど、代表取締役をはじめとする経営陣と定期的に意見交換を行う機会の確保や、社内の重要書類の常時閲覧に加え、監査役が、内部監査部門、経理部門その他の各部門に監査への協力を求めることのできる体制を整備しています。また、「クリナップグループ内部統制システムの整備に関する基本方針」における、内部監査部門および内部通報担当部門による定期的な状況報告などの監査役への報告体制などを整備しています。

## ■ クリナップグループ 内部統制システムの整備に関する 基本方針(抜粋)

当社グループは、企業理念である「家族の笑顔を創ります」をはじめとする経営理念体系の実践により、企業価値の向上を図り、企業としての社会的責任を果たすため、当社グループの業務の適正を確保するための体制の整備に関する基本方針を以下のとおり定める。

1. 当社および当社子会社の取締役などおよび使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制
    - 1) 当社グループは、「行動理念」を含む経営理念体系のもと、社内規程「行動基準」を定め、当社グループのすべての役員および従業員はこれを順守する。また、内部監査担当部門を中心に「行動基準」の浸透と実現に努める。
    - 2) 当社グループは、「内部通報対応規程」を定め、内部通報制度による不正行為などの早期発見および是正を図るとともに、通報者の保護を行う。
    - 3) 当社内部監査担当部門は、「内部監査規程」その他関連社内規程に基づき、監査役などと連携を図り、子会社を含めたグループ全体の監査を行い、その結果を被監査部門のみならず、関係部門ならびに当社代表取締役および当社監査役へ報告する。
  2. 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制
    - 1) 当社グループは、「総括文書管理規程」その他関連規程を定め、当社および当社子会社の取締役の職務の執行に係る情報につき、適切に保存および管理を行うとともに、秘密保持に努める。
    - 2) 取締役および監査役は、これらの情報を必要なときに閲覧できる。
  3. 当社および当社子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
    - 1) 当社グループは、事業継続計画を策定し、危機の発生への速やかな事業継続体制を整備するとともに、当該事業継続計画に基づき、「危機管理規程」その他関連規程を定め、グループ全体の危機管理体制を整備する。
    - 2) 各部門、各子会社に係る各種危機管理体制を整備し、リスクの把握、分析、対応策の検討を行い、予防に努める。また、リスクが実現した場合の対処につき整備する。
- (4.~11.省略)

(2015年4月6日)

# コンプライアンス／リスクマネジメント

## ■ クリナップグループ行動基準

クリナップグループは、コンプライアンスの実現に向け、社員一人ひとりが自ら考え、自ら行動するための基準として「クリナップグループ行動基準」を制定しています。さらに、その周知徹底と理解促進を図るため、より分かりやすく事例などを追記した「クリナップグループ行動基準ハンドブック」をすべての取締役と社員に配付しています。また、全社員への継続的な教育として「行動基準ラーニング」を毎年実施し、コンプライアンス意識の向上に取り組んでいます。



## ■ お客さま情報の保護

お客さまの重要な情報である、個人番号（マイナンバー）、個人情報、プライバシーに関する情報などについて、その保護の重要性を認識し、「個人番号及び特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針」および「個人情報保護方針」に従い、適切な管理体制のもとで取得、利用するとともに、紛失、漏えいを防止するための対応を行っています。

## ■ 内部通報制度「クリナップホットライン」

クリナップグループは、コンプライアンスに係わる問題の早期発見と是正に、迅速かつ的確に対応するため、内部通報制度として、「クリナップホットライン」を運用しています。制度の浸透を図るため、「クリナップグループ行動基準ハンドブック」の中に、趣旨のほか、社内窓口と社外窓口（弁護士）の存在を始めとする詳細を記載し、周知しています。また、「内部通報対応規程」を定め、運用の厳格化と通報者保護の徹底に努めています。

## ■ 反社会的勢力排除への取り組み

当社は、「クリナップグループ行動基準」において、反社会的勢力に対しては毅然とした態度で対応し、また、一切の係わりを持たないことを定めています。2010年には「反社会的勢力排除に向けた基本方針」を制定し、反社会的勢力排除に向けた社内体制を整備するなど、全社的な取り組みを行っています。

## ■ 事業継続計画

2011年東日本大震災を契機に「東」はいわき地区、「西」は岡山地区として「生産体制の東西二極化」を推進してまいりました。

近年、発生頻度が増加してきている今までに経験したことがないような豪雨などの自然災害、そして新型コロナウイルス感染拡大などさまざまな予測困難なリスクに見舞われて来ています。さらなるサプライチェーンをも巻き込んだ事業継続性に向けたさまざまな取り組みを引き続き推進していきます。

ガバナンスに関する当社の方針などはホームページに掲載しています。

「クリナップグループコーポレート・ガバナンス基本方針」  
[https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg\\_01.pdf](https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_01.pdf)

「社外役員の独立性に関する判断基準」  
[https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg\\_02.pdf](https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_02.pdf)

「クリナップグループ内部統制システムの整備に関する基本方針」  
[https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg\\_03.pdf](https://cleanup.jp/ir/pdf/cpg_03.pdf)

「個人番号及び特定個人情報の適正な取り扱いに関する基本方針」  
<https://cleanup.jp/policy/mynumber.shtml>

「個人情報保護方針」  
<https://cleanup.jp/policy/privacy.shtml>

「反社会的勢力排除に向けた基本方針」  
<https://cleanup.jp/company/antisocial.shtml>

## 社外取締役メッセージ

企業としての社会的責任を果たすことを通じて、未来においても事業を存続できる可能性を持ち続けるというサステナビリティの流れに代表されるように、コーポレート・ガバナンス自体の変化が多く進む中で、新型コロナウイルス感染症の拡大は、これまでの企業の形態や意義、個人の生活や働き方、さらには国際社会の秩序に至るまであらゆる方面に影響を及ぼし、かつてないスピードでの抜本的な変革が企業経営に求められています。

その中で社外取締役として期待されている役割は、経営および業務執行に関する重要事項の意思決定に当たり、経営陣とは異なる視点で客観的かつ中立的な立場で提言することであると認識致しております。持続的成長の観点から、建設的な意見を提起し続け、当社の企業価値向上に貢献致してまいります所存です。



社外取締役  
川崎 享

# 働きやすい職場づくり

## ■ 人事制度の基本的な考え方

クリナップの人事制度は、役割成果主義型で、その基幹は役割グレードと職能等級の二本立てですが、その基幹は維持しつつ、社員の“働きがい”と“働きやすさ”を高めるために2015年4月に新人事制度を導入しました。改定されたポイントの多くは評価に関するもので、公正に評価し、評価に基づいて適切に育成していくことを目的としています。

新人事制度を導入して2年が経過したときに、社員満足度調査を行いました。その結果、旧制度に比べて社員の満足度はおおむね向上しており、とくに「役割給(習熟方式)」の導入と、「転居を伴う異動者と単身赴任者」に対する支援強化の満足度は大幅に向上しました。

## ■ 働き方変革への取り組み

長時間労働の是正の観点から2015年に「働き方変革会議」を立ち上げました。従前は退社時間がぎわめて遅い社員が1割程度いましたが、受発注サーバの稼働時間見直しやパソコンのシャットダウン時間の短縮により、退社時間について大幅に改善することができました。

また、2018年4月から営業職約800名を対象にした携帯型パソコンによるモバイルワークを導入しました。直行直帰を推奨し週2回の在宅勤務を認め、柔軟な勤務管理制度にしました。移動時間の削減、隙間時間の有効活用などが進んでいます。コロナ禍において間接部門に対する在宅勤務も進めています。

## ■ ワークライフバランス

2019年7月に「リフレッシュ休暇制度」を導入しました。勤続の節目(5・10・20・30年)を迎える社員が心身をリフレッシュし新たな気持ちで仕事に取り組める環境を整備しました。

また、2020年4月からは有給休暇の取得促進策として「ボランティア休暇」を導入しました。近年多発している自然災害への社会貢献活動につなげたいと考えています。

## ■ コンプライアンス／ハラスメント

クリナップ社員の必須知識やコンプライアンス、ハラスメントなどについては、「クリナップマスターコース」という社内eラーニングの6講座の履修を義務づけています。

またクリナップ社員の行動規範については、「クリナップグループ行動基準」に網羅されており、コンプライアンス、ダイバーシティ、パワハラやセクハラなどの各種ハラスメントなど細かく指針を示しています。コンプライアンス、ハラスメントに対しては内部通報制度があり、社内窓口と社外窓口(弁護士)という2つの窓口があります。

## ■ メンタルヘルス

2015年12月にストレスチェック制度が施行されました。クリナップでは、施行前からストレスチェックテストを実施していましたが、制度化したものではありませんでした。

毎年ストレスチェックテストを実施し、社員のメンタルヘルス不調の予防に努めるほか、月に80時間以上の残業をした社員については産業医に面談できる制度も設けています。

●人事データ(単体)

年度	2017	2018	2019
従業員数 (男性、女性)	2,956名 (2,127名、829名)	2,926名 (2,061名、865名)	2,904名 (2,025名、879名)
平均年齢	40.0歳	40.4歳	40.8歳
平均勤続年数	15.0年	15.1年	15.1年
新卒採用数 (男性、女性)	142名 (76名、66名)	124名 (52名、72名)	122名 (66名、56名)

※従業員数は就業人員で記載しています。

## VOICE

### 働き方を時代と状況に合わせて

会社の資源(リソース)は「人・モノ・金・情報・時間」と言われ、どのように経営効率を高めていくかが課題となります。私たちは一人ひとりが、さまざまな能力・個性・事情を持ち合わせるなか、会社は仕事と生活、および社会との調和を図り、生き生きと働き続けられるかを念頭に「働き方変革活動」として取り組んでいます。

今年は新型コロナウイルスの影響により、在宅勤務や時差通勤など急を要する対応に迫られ制度運用の課題が浮き彫りになり、働き方を根本的に考えるきっかけとなりました。

これからの働き方はワークライフバランスの推進と合わせて、ニューノーマルな働き方が求められていきます。働きやすさを目的に現制度の見直し・整理を人事戦略の最重要骨子と捉え、社員自身が経営資源の効率化を意識できるよう検討していきたいと思えます。



人事部人材開発課 係長  
工藤 真裕

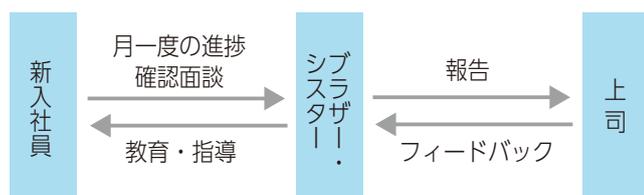
# 人材育成

## ■ 新入社員研修

新入社員は、入社後すぐに研修施設に移動し、約2週間の集合研修を行い、社会人としての基本スキル、会社・業界の概要、歴史、商品知識などを学習します。そして、入社・赴任から約1年後に実施されるのが、2年目ステップアップ研修です。入社時から現在までを振り返り、現状の課題を整理した後、今後に向けてのアクションプランを設定します。

## ■ ブラザー・シスター制度

新入社員研修後、各自配属先へ赴任となります。配属後はスムーズに職場環境に慣れ、仕事に関するスキルを習得することが必要です。そのため、当社ではブラザー・シスターと呼ばれる制度があります。ブラザー・シスターに選任された先輩社員が指導にあたり、仕事のみならず、日常生活における悩み、困りごとの相談相手としても、ブラザーやシスターがフォローします。



## ■ 研修制度 (部門別研修、階層別研修)

研修には部門別研修と階層別研修があります。部門別研修は、商品研修、営業研修、マナー研修、開発研修、生産技術研修などの各部門で必要な専門知識を深めるものです。

階層別研修には、新任部門長研修、新任管理者研修、新任係長研修、新任主任研修などがあります。

## ■ 自己啓発支援と資格取得支援

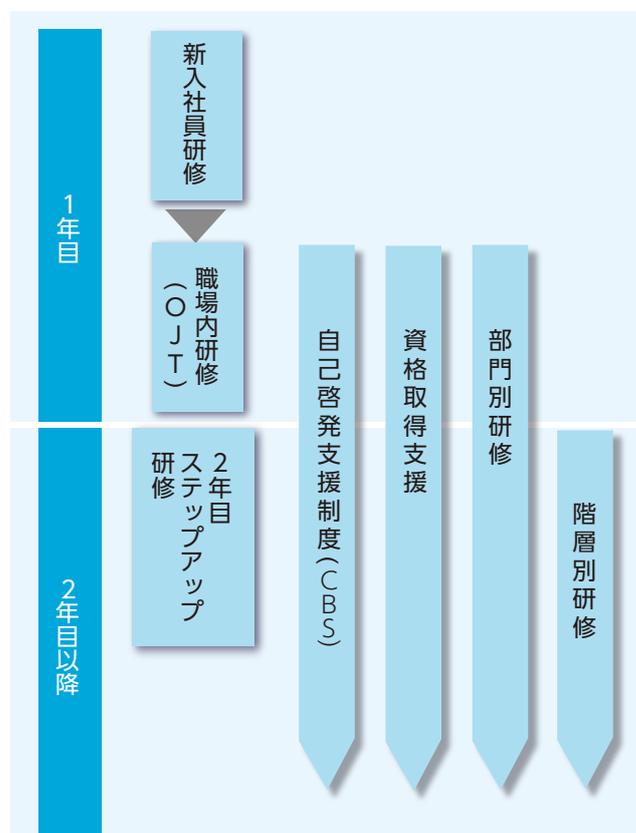
自己啓発支援として「クリナップビジネススクール(CBS)」があり、そのなかに通信教育とeラーニングがあります。

通信教育は、全社推奨コース・部門別推奨コースを用意しており、自身の役割に必要な講座を選択できます。また、定められた期間内に受講した通信教育が修了すると奨学金が支給されます。

また、eラーニングは、インターネット環境があれば、時間・場所に左右されず、パソコンやタブレット、スマートフォンから学習でき、ビジネススキルや語学、マーケティングなど約100講座用意しています。

資格取得支援は、社員の自己啓発の支援を目的としており、幅広いスキルや専門知識・技能の取得を目指し、会社の定めた公的資格を取得した社員に対して資格取得のお祝い金を支給する制度です。キッチンスペシャリストや建築士、インテリアコーディネーターなどの建築関係の資格から日商簿記や販売士、国家技能検定などが対象の資格になります。

## ■ 教育・研修の流れ



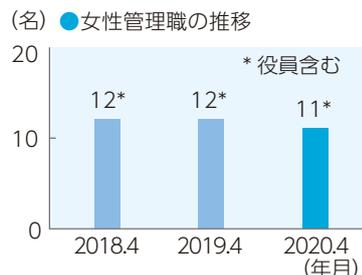
# ダイバーシティ&インクルージョン

## ■ 女性活躍推進と管理者登用

クリナップのダイバーシティへの取り組みは、女性視点を経営／ビジネスに取り入れることを目指すことから始まりました。

女性管理職比率は、女性活躍推進法が成立した2015年の末には1.7%、現在は3.6%となり、社外役員を含めた女性管理職は11名です。社員一人ひとりが能力を最大限に発揮することで社員の成長と会社の成長につなげていくことを目指し、さらなる推進をしていきます。

また、女性総合職の採用にも力を入れており、女性営業職社員は2020年度20名になります。



## ■ キャリア形成支援と両立支援

クリナップ単体の社員のうち、女性は約1/3です。その約半数が全国102カ所のショールームに勤務するショールームアドバイザーという職種です。

そこでショールームでのリーダー役の養成と仕事への意欲を高める施策に取り組んできました。その結果、ショールーム所長が誕生し、多くのリーダーが育っています。「キッチンタウン」と呼んでいる旗艦ショールームは全国に4カ所ありますが、所長はすべて女性です。

また、以前に比べて結婚や出産での離職者は減り、キャリア継続を選択する女性社員が増えています。いったん離職しても復職できる「カムバック制度」があり、積み上げてきたキャリアを継続していけるよう支援しています。

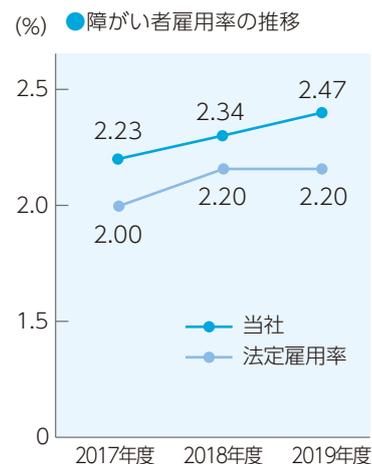
## ●産休取得者数、育児休業取得者数

年度	2017	2018	2019
産休取得者数	22名	27名	32名
育児休業取得者数	37名	48名	46名

## ■ 障がい者雇用

クリナップの特例子会社として、障がいのある社員が社会的に「自律」し、地域社会とともに「共生」できる会社を目指し2008年2月に設立したのがクリナップハートフル株式会社です。

障がいのある社員39名がおり、クリナップグループの施設管理や、データ入力、発送作業などの業務に従事しています。



## ■ 高齢者雇用

高齢者雇用については、50歳以上を対象とする「ネクストステージプラン制度」があり、56歳時に定年前後の情報提供を行う場として「ライフプランセミナー」(社会保険の基礎知識など)を実施しています。そして59歳時には「定年退職ガイダンス」で、定年時の選択肢について説明を行っています。

60歳定年後も定年後再雇用制度や社外への再就職支援サービスを行っています。

## VOICE

### 仲間と助け合い成長していける会社を目指す

クリナップハートフル株式会社は、クリナップグループのCSR活動を象徴し、社会に対し心のもった価値を創造していくことを目的として2008年2月に設立、翌3月に特例子会社の認可を受けました。

2020年6月1日現在、社員数全58名のうち障がいのある社員は39名です。給与計算、清掃・庶務、名刺制作、封入、データ入力、ビス袋詰めなどのオフィスサポート業務や、パン製造・販売業務など、主に西日暮里(東京都荒川区)やいわき地区において、障がいのある社員が健常者とともに多様な能力や特性を生かせる職場づくりを行っています。

今後も、感謝の気持ちを忘れずに仲間と助け合い成長していける会社づくりに努めてまいります。



クリナップハートフル株式会社  
管理部業務課 課長  
石松 裕紀子

## 健康経営／労働安全衛生

### ■ 健康経営

クリナップは企業理念「家族の笑顔を創ります」のもと、企業活動を通じ社員が心身ともに健康な状態で仕事することは、企業活動の根幹であるとの考え方にに基づき、職場の活性化、健全化と社員の健康確保の推進を目指して「クリナップ健康方針」を掲げております。基本方針の一つひとつは、経営層、職場の管理者、社員一人ひとりの責務と考えています。

#### 健康方針

##### 【基本理念】

クリナップの健全な企業活動とは、社員の身体的・精神的・社会的健康と不可分な関係と認識し、社員が健康で業務に専念するための健康確保・健康保持増進活動を推進します。

##### <基本方針>

1. 労働関係諸法令を遵守します。
2. 定期健康診断の受診を義務づけ、社員の意識向上を図ります。
3. ストレスチェック制度を通じて、個人および組織全体の心の健康保持増進に努めます。
4. 社員の労働時間の管理(時間外在社率目標など)を徹底し、適切な指導・管理を行います。
5. 家族の笑顔デーを推進し、長時間労働の削減を図ります。
6. 振替休日・代休の取得を推進し、休日を確保します。
7. 良好なコミュニケーションの実現のため、職場コミュニケーションの機会を創出します。
8. 産業医面談およびメンタルヘルスに関する面談を適宜実施します。
9. 身体的・精神的・社会的に健康であることの重要性を周知し、社員の意識向上を図ります。
10. 以上を通じて、「健康を確保した働き方(働き方変革)」を実現します。

2016年4月1日

### ■ 労働安全衛生

生産部門では「ワーク・ライフ・バランスの実現」と「長時間労働による健康障害防止」を目的として、毎月4日以上ノーマンデーを実施し、労使一体となって取り組み、ノーマンデーの取得率向上を図っています。また、有給取得率向上施策として、取得率が低かったライン長・班長に対しマイバースデー休暇以外にアニバーサリー休暇2日の取得を促す施策を推進しています。

#### クリナップ工場グループ労働安全衛生方針

##### 【基本理念】

クリナップ工場グループは、社員の安全と健康の確保は企業活動と不可分な関係と認識し、安全で働きやすい職場環境を確保するよう活動します。

##### <基本方針>

1. 安全と健康の確保は、良好なコミュニケーションのもとに実現されるとの認識に立ち、社員との協議を尊重します。
2. 安全衛生関係諸法令および社内安全衛生諸規程による自主基準の遵守により、管理レベルの向上を図ります。
3. 安全衛生マネジメントシステムを利用し、継続的な安全衛生水準の向上を目指します。
4. 安全衛生活動の推進を可能とするため、組織体制の整備、責任所在の明確化を図ります。
5. 職場において安全衛生上の検討を充分加え、危険有害性を事前に評価するとともに、結果に応じた危険有害要因の排除を推進します。
6. 化学物質の安全な取り扱いを徹底します。
7. 社員に安全衛生確保に必要な教育・訓練を実施し、快適かつ健康的な職場の形成を進めます。
8. 社員の心の健康の保持増進のため、ストレスチェックなど、メンタルヘルスクアを積極的に推進します。
9. 安全衛生の重要性を社員に周知し、意識の向上を図ります。
10. 重筋作業の作業負荷を軽減し、働きやすい職場環境を形成します。
11. ワーク・ライフ・バランス実現に向け、働き方改革を推進します。
12. この方針は、外部に公表することができるものとします。

2019年4月1日

# CSR調達(1)

## ■ 基本的な考え方

クリナップグループはお客さまに満足していただける商品とサービスを提供し続けるため、取引先さまとより良い関係を築き、「調達方針」のもと、「クリナップグループCSR調達ガイドライン」を策定し、2020年より運用します。

### 調達方針

私たちクリナップグループは、取引先さまと公正、自由、透明な競争原理をもって、サプライチェーン全体で共存共栄をはかり、社会的責任を果たしてまいります。

1. 取引先さまに競争の機会を公正・公平に提供します。
2. 取引先さまの選定は、品質・価格・納期・技術開発力・安定供給能力・環境対応などの総合的な評価と適正な手続きにより行います。
3. 法令、社会的規範などを遵守し、人権、安全衛生、環境など社会的責任を果たす調達活動を行います。
4. 取引先さまと相互理解を深め信頼関係を大切にしていきます。

2020年9月1日

## ■ CSR調達ガイドライン

「CSR調達ガイドライン」は9項目で構成されており、クリナップグループの取引先さまとして遵守すべき項目について共有されており、取引先さまにご理解・ご協力をいただきながら、浸透に努めCSR調達を推進しています。

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| 1) 法令および社会規範の遵守 | 6) 公正な事業活動  |
| 2) 品質の維持・向上     | 7) 環境対応     |
| 3) 価格           | 8) 人権・労働    |
| 4) 安定供給         | 9) 地域社会との共生 |
| 5) 安全の確保        |             |



## VOICE

### 取引先さまとともにCSR調達を推進

クリナップグループでは、企業理念「家族の笑顔を創ります」のスローガンのもと資材調達を行う上で取引先さまと共存共栄を図りながら、関係法令やクリナップ行動基準を遵守することはもちろん、人権・安全衛生・環境などに十分配慮した公正で透明性の高い取引を行います。

さらに、国内外の取引先さまに対し平等な取引の機会を設け、公正に取引先さまを選定した上で取引契約に基づく誠実な取引を行います。

そして、お客さまから要求される高い品質、価格、納期、安全性を満足させるべく優良かつ信頼できる取引先さまとともに社会的責任を果たしていきたいと考えます。新たに「クリナップグループCSR調達ガイドライン」を制定しましたので今後も取引先さまとともにCSR調達を推進してまいります。

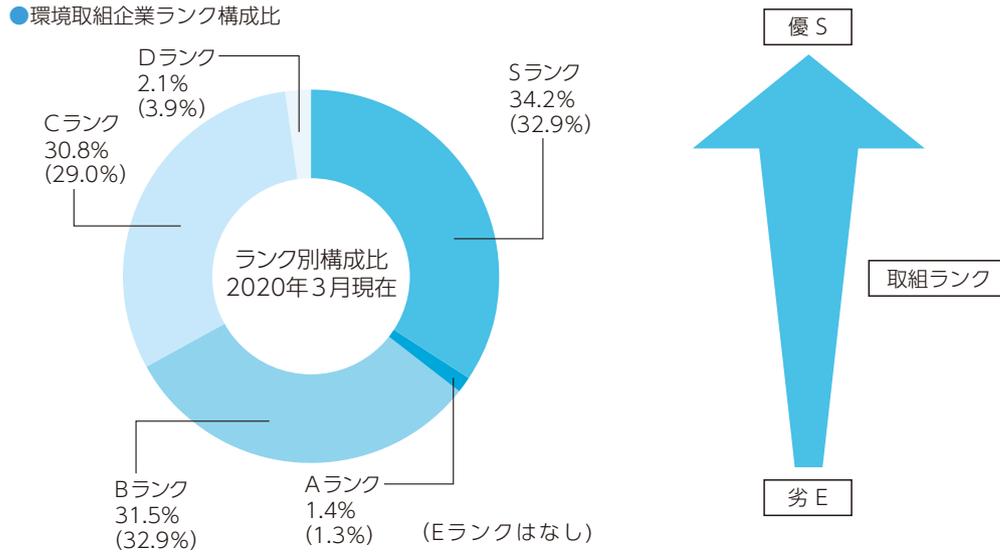


購買部  
金子 昭秀

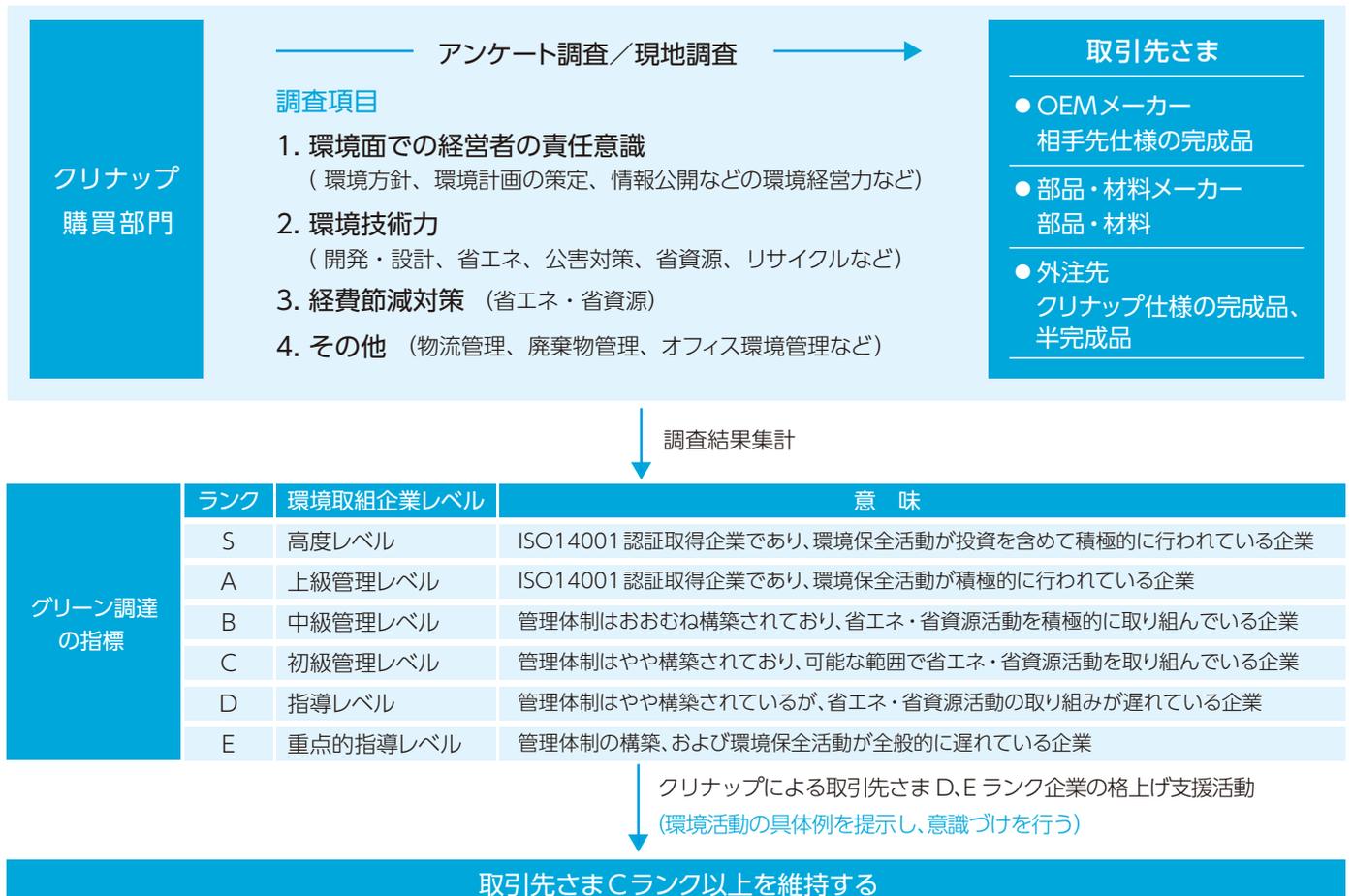
# CSR調達 (2)

## ■ グリーン調達

2007年度から、取引先さまに対し、グリーン調達のアンケート調査を実施し、取引先さまの環境保全活動の取り組み状況を確認しています。取り組みのランクに応じ、取り組みの弱い企業に対しては支援活動を行い、取引先さま全体の環境保全に対する底上げを実施し、環境に対する社会的要求をサプライチェーン全体で取り組む活動を行っています。



※数値は2019年度。( )内は2018年度を示します。



## 品質保証

### ■ 基本的な考え方

クリナップは創業期から品質にこだわり、製品の安全確保こそが最も重要な品質であると考えています。お客さまに安心、満足して長い間ご使用いただけることはもちろんですが、商品だけでなく、営業品質や物流品質、取付・設置やアフターサービス品質などサプライチェーン全体の品質を高めるトータル品質向上にも努めています。

また、お客さま窓口であるカスタマーセンターには、毎年数十万件の情報が寄せられます。このような「お客さまの声」を分析して商品の企画や品質に反映し、お客さま満足度の向上に努めています。

### ■ ISO9001(品質)への取り組み

クリナップは、1996年にキッチンメーカーで初めて、品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001」の認証を取得しました。物流関係会社「クリナップロジスティクス株式会社」および取付・設置・アフターサービスを担う関係会社「クリナップテクノサービス株式会社」も認証を取得しています。

### ■ 長期間にわたってお客さまをサポートする [スマイル20]

水まわり設備は、お客さまの喜びや笑顔のある暮らしを支える「道具」です。しかし、道具である以上、日々のお手入れ、定期交換が必要な消耗品の補給、年月を重ねることで劣化していく部品の交換などメンテナンスが必要となってきます。

このようなメンテナンス対応として、クリナップでは20年サポートプログラム「スマイル20」をご用意しています。

スマイル20は、商品の機能・性能を維持していくためのメンテナンス情報をご提供するとともに、それに必要なサポート体制を整え、お客さまの「喜び」「笑顔」を実現させていくためのお手伝いをいたします。

## VOICE

### お客さまに「満足や喜び」を感じていただける対応を目指します

お客さま相談窓口であるカスタマーセンターへは「お問合せ」や「修理依頼」、「お買いもの相談」など年間数十万件の「お客さまの声」が寄せられます。

カスタマーセンターでは、その「お客さまの声」を分析して商品の企画や品質の向上、さらには新たなサービスメニューの開発に反映し、お客さま満足度の向上に努めております。

また、お客さまの「よき相談者、よき理解者、よき伝達者」となるため、知識の習得や話法の改善に努め、お問合せいただいた際の「安心感」や「心地よさ」など、お客さまに「満足や喜び」を感じていただける対応を目指します。



CS管理部  
カスタマーセンター 係長  
吹谷 恭生

### 品質方針

私たちクリナップグループは、企業理念『家族の笑顔を創ります』のもと、品質マネジメントシステムを推進し、お客さま満足度の向上に努めます。

1. お客さまの安全を第一に考え、感動していただける高品質の製品・サービスを提供します。
2. お客さまの声を積極的に品質に反映して、お客さま満足度の向上に努めます。
3. サプライチェーン全体における品質改善活動を継続的にを行い、トータル品質とコストマネジメントを強化します。
4. 法令、規制要求事項を遵守し、社会から信頼される企業を目指します。
5. 品質マネジメントシステムを推進し、継続的改善を行います。

2020年4月1日

※CSR方針との関連性をより意識し、ISOの規格要求事項を満たしつつシンプルでわかりやすい方針としました。



アフターサービス作業風景



## お客さまとの接点

### ■ お客さまとの重要な接点・102カ所のショールーム

クリナップは経営戦略として「ショールームを核とした販売戦略」を掲げています。初めてのショールームを東京・飯田橋に開設したのは1970年に遡り、お客さまとの接点を重視する姿勢は一貫しています。現在、ショールームは日本全国に102カ所(2020年7月1日現在)あります。

ショールームは「暮らし方発信情報拠点」と位置づけており、商品や食に関する情報に精通したショールームアドバイザーがお客さまの暮らしの課題・問題にお応えしています。

### ■ 旗艦ショールーム「キッチンタウン」

102カ所のショールームの中でも旗艦ショールームとして位置づけているのが東京、横浜、名古屋、大阪にある4つの「キッチンタウン」です。

キッチンタウンでは、システムキッチンやシステムバスルーム、洗面化粧台の展示に加え、食・住に関する情報を定期的に発信し、最新の商品ラインアップとライフスタイルの提案を通じ、暮らし方のサポートをしています。



キッチンタウン大阪(2020年7月1日現在)

### ■ ショールーム商談におけるITツールの活用

クリナップでは2019年度下期から、全ショールームでインターネット予約サイトを稼働しました。お客さまが思い立ったタイミングで、お好みの日時を選びながらご予約いただける環境が整い、ご来場に対する予約割合が向上しています。

また、2020年9月から、全ショールームでタブレットPCを活用したショールーム商談を行っています。ショールームに展示された実際の商品をご確認いただくだけでなく、お客さまのご要望に適した商品イメージのシミュレーションや、ショールーム内に展示されていない商品も、ご案内しています。

さらに、10月からは、オンライン上にリアルなイラストでショールームを再現した「オンラインショールーム」を設けて、お客さまが自宅で商品を体感できるようなコンテンツを開始しました。

ショールーム館内の展示とITツールを駆使し、これまでよりも、満足度の高いプランをスムーズに提案していきます。



オンラインショールーム

## VOICE

### 商談にタブレット導入でサービスを向上

この夏、弊社ショールーム商談に、タブレットPCが新たに加わりました。使ってみると、タブレット上でデータ管理ができるという多くの発見があり、お客さまへのサービス向上へとつながっております。具体的には、商談に必要な資料を印刷する手間が省けることや、資料やカタログを都度取りに行く必要がないことで、お施主さまをお待たせする時間が少なくなりました。また、通常はお施主さまがお帰りになった後にお見積り作成をしていましたが、商談中に作成できるようになったことで、費用感や納品後のイメージをその場で確認いただける機会も増えております。

今までにも増してお客さまのご満足いただけるよう、アドバイザー一同注力してまいります。



販売促進部横浜ショールーム  
安藤 妙

## 社会とのかかわり(1)

### ■ クリナップ財団と給付型奨学金制度

東日本大震災に被災し、操業停止の危機を体験したクリナップは、地域の方々に助けていただいたことに対する感謝の気持ちを社会に還元するため、東日本大震災の翌年2012年12月に福島県内における被災地復興支援の一環として「公益財団法人クリナップ財団」の設立に寄与しました。

同財団の主な事業内容として、福島県出身者で福島県内の大学、高等専門学校などに進学する、学業優秀で向学心旺盛ながら、経済的な理由により就学が困難な学生に対して給付型奨学金制度を設け、奨学支援を行っております。



奨学金授与式に参加した学生

### ■ レスリング部

東京五輪の第1次予選である「2019年レスリング世界選手権」が、9月にカザフスタンで行われました。本大会にクリナップが運営する、レスリング部の皆川博恵選手(女子76kg級)が出場し、見事銀メダルを獲得、東京五輪代表に内定しました。

クリナップは1992年にレスリング部を創部し、企業スポーツとして運営しています。現在は、皆川選手を含め3名の選手が所属しています。生産拠点である福島県いわき市では、キッズレスリングも支援しています。クリナップは、今後も日本のレスリング発展に貢献してまいります。



東京五輪代表に内定した皆川選手(左)



キッズレスリング風景

### ■ クリ夫のパン屋

クリナップの特例子会社であるクリナップハートフル株式会社は、心豊かな食住文化を創るとともに、障がい者雇用を創出するため、2016年11月にベーカリーショップ「クリ夫のパン屋」をオープンし、障がい者が働ける場を設けました。

店舗はクリナップの創業に由来した地である西日暮里(東京都荒川区)に新設し、菓子パン、惣菜パン、サンドイッチ類など、40種類の商品を店内で焼き上げ、販売しています。

オープン4年を迎え地域の皆さまが多く来店され、喜ばれています。



### ■ DreamiaClub

クリナップでは、心豊かな食住文化を創るために、食と暮らしの夢、楽しさ、喜びを伝える活動を自宅のキッチンで行う自宅教室の主宰者「サロネーゼ」と、その自宅教室に関心がある人を支援する組織「DreamiaClub」を2008年に立ち上げました。豊かな食と暮らしの実現を目指して、教室の情報発信への協力など運営支援、活躍の場の提供など、継続的な活動を実施しています。



教室名「Lisas おうちパーティーコーディネーター京都(主宰:大橋りさ様)」

## 社会とのかかわり(2)

### ■ 食育活動

子どもが育つ環境に「くらしの時間」を取り戻すために考案された「弁当の日」を全国の小学校に広める活動「弁当の日応援プロジェクト」に2012年の立ち上げから参画。講演会や子ども料理教室などの支援を行っています。また、2014年からは生産拠点であるいわき市の地元企業と「お弁当コンテスト」を毎年共催。子ども達自身がお弁当を作ることを通じて、家庭や地域、社会のあり方などを見つめ直す試みを応援しています。



当社が支援し「弁当の日」を導入した本社隣の荒川区立第六日暮里小学校の様子



### ■ 資源循環の取り組み紹介

福島県いわき市にある当社取引先さまでもある地元企業で取り組んでいる「森林資源の有効利用に関する学生向け教育」の一環として、資源循環のパネル展示などにも当社として協賛し、生産工場から排出される木質系廃棄物を、新たな資源として活用するまでの仕組みをわかりやすく紹介しています。



木質系廃棄物の活用をパネル展示

### ■ おいしい暮らし研究所

キッチンを通じた、楽しいふれあいの場づくりのために、食や暮らしに関する情報の収集、調査・分析を行っている研究部門が「おいしい暮らし研究所」です。

キッチンから見た生活者の“いま”を紐解くべく、食・物・空間の変化を3年ごとに調査・分析したものを『キッチン白書』として発表しています。

『キッチン白書2020』では、キッチン空間に保有される調理器具類、食器類の変化を中心に調査。2011年、2016年と比較し、全年代でほぼすべてのアイテム保有率が低下していることがわかりました。

調理器具では、使用用途が限られるものの保有率低下が顕著で、食器類では改まった場で必要なもの、使用するシーンが限られるアイテムの低下が目立ちます。

これらの傾向は、『キッチン白書2019 献立編』で見た「和食が減り一品料理で食事となる献立への変化」との関連も推測される結果となりました。



「キッチン白書 2020」は当社ホームページに掲載しています。  
<https://cleanup.jp/oikura/pdf/kitchen-hakusyo2020.pdf>

# 環境方針／環境保全活動推進体制

## ■ 基本的な考え方

クリナップでは企業理念「家族の笑顔を創ります」のもと地球環境との共生を図りながら、持続可能な社会の実現のために、CO<sub>2</sub>排出量や廃棄物の削減、化学物質による汚染防止対策、環境配慮型商品の開発など課題を挙げて環境活動に取り組んでいます。

すべての生産工場においてISO14001の認証を取得し、環境マネジメントシステムを構築、運用しています。

また、環境方針を制定し、全社員に浸透させるとともに各部署が方針に基づいた目標を設定し、環境活動を推進しています。

### 環境方針

私たちクリナップグループは、企業理念『家族の笑顔を創ります』のもと、環境マネジメントシステムを推進し、地球環境との共生を図ります。

1. 地球環境負荷低減のため、温暖化防止・廃棄物削減などに取り組めます。
2. 環境への負荷が少なく安全に配慮した製品づくりを行います。
3. 環境法令などを遵守し、汚染の予防を図り、環境保全に努めます。
4. 環境マネジメントシステムを推進し、継続的改善を行います。
5. ステークホルダーとのコミュニケーションの充実に向け情報の発信および地域奉仕活動を行います。

2020年4月1日現在

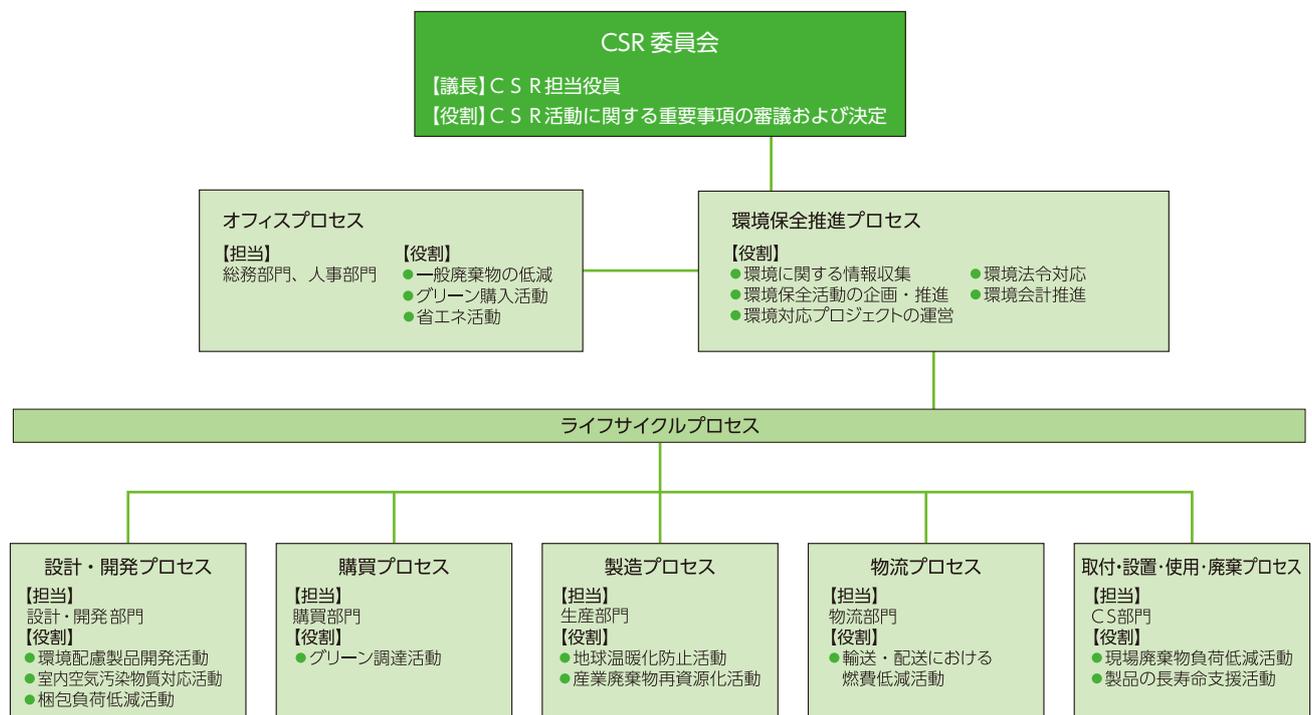
※CSR方針との関連性をより意識し、ISOの規格要求事項を満たしつつシンプルでわかりやすい方針としました。

## ■ 環境保全活動推進体制

クリナップの環境保全活動に対する全社的な意思決定を行う会議体として、「CSR委員会」があります。

「CSR委員会」で取り扱う環境に対する議題は、環境保全活動の方向性や目標設定、中期経営計画に取り上げた環境保全活動の進捗状況などがあります。

それ以外にもさまざまな議題について幅広く報告・審議されています。



# 事業活動に伴う環境課題

## ■ 環境保全会議

2019年度の「環境保全会議」では、「事業活動の中での環境負荷の低減」を中心に下記項目を審議してまいりました。

1. 「省資源リターンブル梱包」に関する報告
2. 「2019サステナビリティレポート」の内容に関する審議
3. 「省エネ法届出」の内容に関する審議
4. 「CSR委員会」に関する審議
5. 「SDGsの取り組み」に関する審議
6. 「品質・環境方針の見直し」に関する審議
7. 「2020年度ISO新組織体制」に関する審議

2020年度からは、「環境保全会議」を「CSR委員会」とし、クリナップグループのCSR活動に関する重要事項の審議をしてまいります。

今後も地球温暖化対策をはじめとする地球環境問題への対応や、環境に配慮した製品づくり、廃棄物の削減やリサイクル化を進め循環型企業を目指し、環境活動を通じて社会に貢献してまいります。

## ■ クリナップの環境課題

クリナップの環境課題は3つの要件から導き出されます。まず第一にマテリアルバランスです。マテリアルバランスとは、事業活動に伴って投入された資源の量と、その活動によって排出された物質やCO<sub>2</sub>排出量の収支です。マテリアルバランスを知ることにより、事業活動の環境負荷を把握できます。

第二に環境関連法令です。工業製品の製造は多くの法令によって規制されており、その遵守が必須です。

第三が顧客と社会から求められている課題です。この3要件から導き出されるのが、以下の5つの環境課題です。

- ① 地球温暖化防止対策
- ② 廃棄物対策
- ③ 製品の環境配慮対策
- ④ 化学物質対策
- ⑤ 製品梱包の負荷低減対策

## ■ 環境関連法令

下記に挙げている法令はクリナップの事業活動に関連する環境法規制です。

地球温暖化対策推進法、廃棄物処理法、水質汚濁防止法、省エネルギー法、建設資材リサイクル法、浄化槽法、建築基準法、家電リサイクル法、騒音規制法、振動規制法、PRTR法(化学物質排出把握管理促進法)、容器包装リサイクル法、悪臭防止法、消防法、グリーン購入法、自動車NOx・PM法、毒物及び劇物取締法、道路運送車両法、資源有効利用促進法、大気汚染防止法、オフロード法、フロン排出抑制法、土壌汚染対策法

## ■ 顧客と社会から求められている環境課題

多くの企業活動は、何らかの形で環境と関わりを持っており、たくさんの資源と多くの電力を使う製造業はとくに大きな責任を担っています。クリナップもいくつかの課題を持っていますが、具体的な環境課題への取り組みとして下記の4項目をご紹介します。

### 1. CO<sub>2</sub>排出量の削減

温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>排出量の削減は世界共通の課題であり、クリナップが重視する環境課題です。製造業では多くの電力や化石燃料を使用するため、製造プロセスをより効率的にする努力が欠かせません。

また、自動車を用いる物流プロセスでのCO<sub>2</sub>排出量も、より合理的なシステムにすることにより削減するように努力しています。

### 2. 取付・設置現場廃棄物の削減

私たちの製品から取付・設置現場で排出される廃棄物には、梱包材のほかにも、現場寸法に合わせて切断された部材の端材、接着剤容器などがあります。これらの取付・設置現場廃棄物の処理責任は工事の元請業者さまにあります。しかし、埋立処分場が逼迫し、処理費用が高まる中で、私たちの製品から出る廃棄物を処理する方々にとって、処理負担はますます増大しています。

このような背景を受け、取付・設置現場から排出される廃棄物の減量化や梱包材の削減に取り組んでいます。

### 3. ライフサイクルアセスメント(LCA)

ライフサイクルアセスメントとは、製品やサービスに対する環境影響評価の手法を指しています。製品の製造、輸送、販売、使用、廃棄、再利用までの環境負荷を意識し、環境負荷の少ない製品の開発を行っています。

ステンレス材をシステムキッチンに使った「エコキャビ」はLCAの考え方に基づき、長寿命、リサイクル性などの環境性能を高めた製品です。

### 4. シックハウス対策

揮発性有機化学物質による室内空気汚染が関係すると思われる健康問題、いわゆる「シックハウス問題」について厚生労働省では「シックハウス(室内空気汚染)問題に関する検討会」を開催し、室内濃度指針値の策定に取り組み、13物質の指針値を策定し、2019年1月に3物質の指針値改定を行いました。

クリナップのシックハウス対策は、シックハウス症候群の原因であるホルムアルデヒドの放散量が最も少ない基準値(F☆☆☆☆)の原材料を使用しています。

# マテリアルバランス

## ■ マテリアルバランス

クリナップの開発から出荷までの事業活動に伴う資源投入および排出物の状況です。

### ライフサイクルプロセス

IN		OUT	
<b>開発・設計プロセス</b>		<b>製造プロセス</b>	
物量指標未設定		CO <sub>2</sub> 排出量 14,759 t-CO <sub>2</sub> (14,836 t-CO <sub>2</sub> ) <span style="color:red">!</span>	
<b>購買プロセス</b>		PRTR指定化学物質 13 t (15 t)	
電気	21,112 千kWh (21,060 千kWh)	産業廃棄物排出量	8,385 t (8,185 t)
A重油	809 kℓ (888 kℓ)	金属有価物排出量	1,076 t (1,138 t)
軽油	5 kℓ (5 kℓ)	部品梱包用ダンボール	518 t (567 t)
灯油	24 kℓ (26 kℓ)	一般廃棄物排出量	32 t (36 t)
ガソリン	10 kℓ (11 kℓ)	排水量	76 千m <sup>3</sup> (60 千m <sup>3</sup> )
LPG	155 千m <sup>3</sup> (91 千m <sup>3</sup> )	<b>物流プロセス</b>	
水資源	76 千m <sup>3</sup> (60 千m <sup>3</sup> )	製品出荷重量	64,535 t (64,337 t)
製品梱包用ダンボール	3,134 t (2,980 t)	CO <sub>2</sub> 排出量	3,363 t-CO <sub>2</sub> (3,364 t-CO <sub>2</sub> ) <span style="color:red">!</span>
木材	39,529 t (38,429 t)	<b>取付・設置・使用・廃棄プロセス</b>	
樹脂	21,919 t (22,204 t)	製品梱包材重量	3,134 t (2,980 t)
金属	12,548 t (13,074 t)		
PRTR指定化学物質	1,135 t (1,120 t)		

### オフィス活動

IN		OUT	
<b>購買プロセス</b>		<b>本社・いわき部門オフィスプロセス</b>	
電気	2,498 千kWh (2,687 千kWh)	CO <sub>2</sub> 排出量	1,422 t-CO <sub>2</sub> (1,513 t-CO <sub>2</sub> ) <span style="color:red">!</span>
軽油	5 kℓ (6 kℓ)	一般廃棄物排出量	13 t (13 t)
灯油	13 kℓ (10 kℓ)	書類	37 t (41 t)
ガソリン	16 kℓ (23 kℓ)	排水量	15 千m <sup>3</sup> (15 千m <sup>3</sup> )
LPG	7 千m <sup>3</sup> (9 千m <sup>3</sup> )		
水資源	15 千m <sup>3</sup> (15 千m <sup>3</sup> )		
コピー用紙	2,564 千枚 (3,087 千枚)		

数字は2019年度、( )内は2018年度を示します。!は、電気のCO<sub>2</sub>排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

製造プロセスのCO<sub>2</sub>排出量は、省エネ設備への更新や照明設備のLED化により前年比0.5%の削減となりました。産業廃棄物の排出量は、内作生産台数の増加や有価物が産業廃棄物となったことなどの影響により前年比総量で200トンの増加となりました。

# 環境計画の目標と成果

● 達成 ● 未達成

方針	活動項目	単位	主幹部門	2019年度		今後の達成目標
				目標	実績	
環境に配慮した製品づくり	進行中の開発テーマにおける使用禁止化学物質の不使用確認	不使用率 %	開発部門	100%確認	100%確認	● 進行中の開発テーマにおける使用禁止化学物質の不使用確認
	ハウスメーカーのリターナブル梱包推進	利用率 %	営業部門	90%以上	利用率95%	● 特定ハウスメーカー（工場納品分）リターナブル梱包利用率90%以上
事業活動の中での環境負荷の低減	生産部門の二酸化炭素排出量生産台数原単位の削減	前年比 %	生産部門	1%削減	0.9%削減	● 生産台数原単位前年比1%削減
	物流部門の二酸化炭素排出量走行距離原単位の削減	前年比 %	物流部門	1%削減	0.2%削減	● 走行距離原単位前年比1%削減
	社有車を低燃費車への切替えによる二酸化炭素排出量の削減	t-CO <sub>2</sub>	購買部門	2.52 t 削減	2.67 t 削減	● 総量1.89 t-CO <sub>2</sub> /年以上の削減
	本社オフィス部門の二酸化炭素排出量の削減	前年比 %	本社総務部門	1%削減	1.3%削減	● 総量前年比1%削減
	いわきオフィス部門の二酸化炭素排出量の削減	前年比 %	いわき人事部門	1%削減	7.3%削減	● 総量前年比1%削減
	本社オフィス部門の電力使用量の削減	前年比 %	本社総務部門	1%削減	1.7%増加	● 総量前年比1%削減
	生産部門の産業廃棄物排出量生産台数原単位の削減	前年比 %	生産部門	1%削減	0.3%増加	● 生産台数原単位前年比1%削減
	本社オフィス部門の一般廃棄物排出量の削減	前年比 %/人	本社総務部門	1%削減	1.0%削減	● 1人当りの排出量前年比1%削減
	いわきオフィス部門の一般廃棄物排出量の削減	前年比 %	いわき人事部門	1%削減	11.1%削減	● 総量前年比1%削減
	本社オフィス部門のコピー用紙削減	前年比 %/人	本社総務部門	1%削減	9.2%削減	● 1人当りの排出量前年比10%削減
環境コミュニケーション	地域社会貢献	—	全部門	敷地周辺清掃	敷地周辺清掃	● 敷地周辺清掃継続
	環境取組の情報開示	—	環境保全部門	報告書の発行	サステナビリティレポートの発行	● サステナビリティレポートの発行

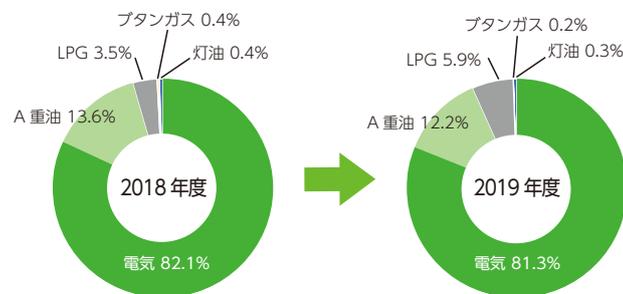
! は、電気の CO<sub>2</sub> 排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

# 環境活動

## 生産部門のエネルギー削減への取り組み

生産部門で使用している主なエネルギーは、電気・A重油・LPGであり、その中で電気が約80%を占めています。エネルギー使用量の多い、電気を削減するため、2019年度は前年度に引き続き、照明のLED化やコンプレッサーの更新を行いました。その結果、前年と比較すると電気の占める割合が原油換算で0.8%削減することができました。エネルギー割合としては大きな変化はありませんが、今後も継続的に照明のLED化を実施していきます。

### ● 生産部門エネルギー割合



LED

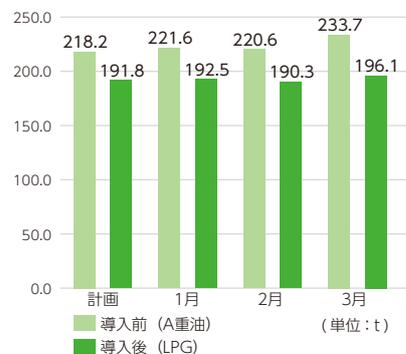


コンプレッサー

## ボイラーの燃料転換によるCO2排出量削減

人工大理石の樹脂の成型加工に必要な熱源は、A重油を燃料とする蒸気ボイラーを使用しています。人工大理石の生産割合が増加したことにより、A重油に起因するCO2排出量も増加しています。そこで、2020年1月にA重油を燃料とするボイラーを高効率のLPガスボイラーへ更新を行いました。これにより、燃効率がよくなり月平均約30トンのCO2排出量を削減することができました。エネルギー使用割合としては、3カ月稼働でA重油が1.4%削減、LPGが2.4%増加となりました。

### ● LPガスボイラーによるCO2排出量



ボイラー

## 省エネパトロール

省エネパトロールは、各工場の製造ラインを定期的に巡回しています。省エネパトロールは製造設備が停止している時間帯を利用して、エアリークや照明、冷暖房設備の消し忘れなどをチェックしています。一人ひとりの省エネに対する意識づけを向上させるため、今後も継続していきます。



エアリーク箇所の特定

## VOICE

### 燃料転換してCO2排出量削減

人工大理石カウンターを製造しているクレート工場では、毎年CO2排出量生産台数原単位1.0%削減の目標を掲げています。人工大理石カウンターを成型するには、大量の蒸気が必要となり、長年「A重油」を燃料としたボイラーを使用してきました。ボイラーの燃料にはさまざまな種類があり、よりCO2排出係数の低い燃料に転換するため、各部門と協力しながら活動を行い、「LPG」の高効率ボイラー設備を、導入しました。また、工場内での蒸気のムダを減らす活動を行い、2019年度は、CO2排出量生産台数原単位1.0%削減を達成しました。

今後は、蒸気利用効率を上げる活動を行い、さらなるCO2排出量削減となる方策の検討を実施していきます。



湯本工場 製造技術課 課長  
管野 裕之

# 廃棄物対策・資源の有効利用

## ■ ゼロエミッション※1への取り組み

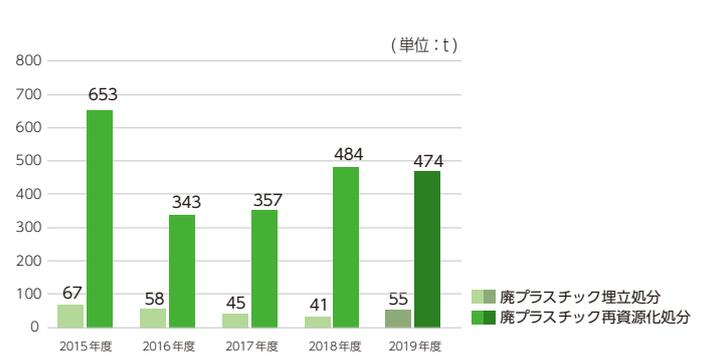
クリナップの製造プロセスで発生する産業廃棄物は90%が木くず、6%が廃プラスチック類、残りの4%はその他が占めています。

ゼロエミッションへの取り組みによって、現在の再資源化率は99%と目標を達成しています。今後も再資源化率が向上するよう努力していきます。

### ● 木くずの再資源化処理推移グラフ



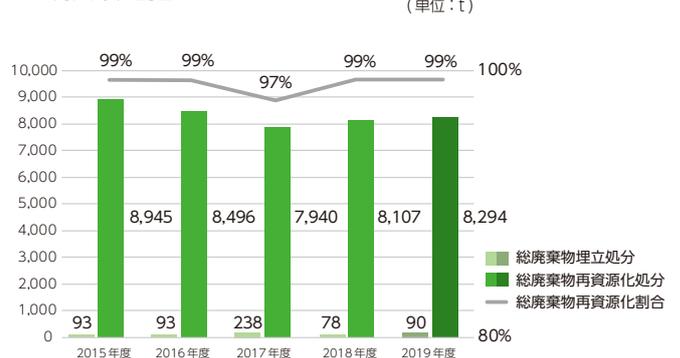
### ● 廃プラスチック再資源化処理推移グラフ



### ● その他の廃棄物※2の再資源化処理推移グラフ



### ● 再資源化割合グラフ



※1. ゼロエミッションとは、環境負荷を低減するために廃棄物 (emission) を再資源率 99%以上にする事としています。  
 ※2. その他の廃棄物とは、ガラス・陶磁器くず、金属混合物、廃油、汚泥などです。  
 ※3. 各処分量は、マニフェストより算出しています。

## ● 再資源化の課題

廃棄物の総量は、内作生産台数が増加したことにより前年比200トン増となりましたが、再資源化率は99%と目標達成となりました。有価物として扱えなくなった、廃プラスチック類や金属複合物を再度、有価物化することが今後の課題です。

## ■ 有害化学物質に対する取り組み

シックハウスの原因になる室内空気汚染物質は、トルエン、キシレン、スチレン、ホルムアルデヒド、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、エチルベンゼンなどです。クリナップの製造プロセスでは、2019年度は29トンを取り扱いました。今後もグループ全体で代替物質への転換、対象物質の使用量削減に取り組んでいきます。

### ● 室内空気汚染物質取扱量の推移



## ● 取扱量削減への課題

接着剤に含有されている溶剤や樹脂の可塑剤が主な対象となりますが、一部、水系エマルジョンタイプへの切り替えを行ってきておりますが、さらに品質・機能・価格を満足した代替品への切り替えを加速させていきます。

# 梱包負荷低減

## ■ 省資源への取り組み「リターナブル梱包」

システムキッチンワークトップ梱包によく使われるのは使い捨てのダンボールです。

クリナップは2003年より、取付・設置現場での廃棄物削減対策として、製品納入後に回収し、繰り返して使えるように設計されたリターナブル梱包を積極的に使い、ダンボール梱包削減に取り組んできました。

2016年には、新タイプのリターナブル梱包を開発導入し、順調にダンボール梱包の削減が進んでいます。

また、これまでは中高級価格帯キッチンでの対応でしたが2019年には普及価格帯まで拡大し、省資源化へ貢献しています。

### ● リターナブル梱包回収のしくみ



出荷時のリターナブル梱包



回収時のリターナブル梱包



回収したリターナブル梱包は清掃して再出荷

### ● リターナブル梱包によるダンボール削減量推移グラフ



## ■ 省資源への取り組み「シュリンク梱包」

キッチン壁パネルを透明フィルムで覆い、シュリンク梱包機に通して加熱するとフィルムが縮んで製品を密封加工します。鹿島システム工場では、2018年3月にキッチン壁パネルの梱包をダンボール梱包から一部ダンボールを使用しながら、シュリンク梱包へ設計変更を実施しました。

2019年9月には、岡山工場へシュリンク梱包機を増設し、同じくキッチン壁パネルへの運用拡大を行いました。その結果、ダンボール削減量は、月平均約39トン削減することができました。今後も、シュリンク梱包を活用しダンボール梱包を削減する活動を行ってまいります。



シュリンク梱包機

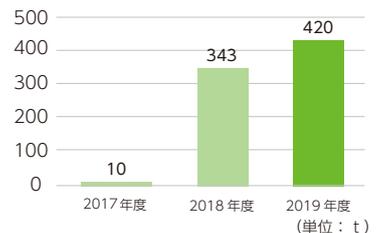


シュリンク



シュリンク梱包

### ● シュリンク梱包によるダンボール削減量推移グラフ



## VOICE

### 岡山工場にもシュリンク梱包を導入

2018年3月に福島県いわき市にある鹿島システム工場へキッチン壁パネルのシュリンク梱包を導入し、岡山県勝田郡にある岡山工場には2019年9月に、同じくキッチン壁パネルのシュリンク梱包を展開導入しました。鹿島システム工場へ導入した当初の課題は改良され、比較的スムーズな導入を行うことができました。シュリンク梱包の導入効果としては、①段ボール資材の大幅な削減、②変動費削減、③作業負荷の削減(同時に導入した反転機と梱包軽量化による)と、一石三鳥の効果を得ることができました。今後もVEによる会社への利益貢献はもちろん、環境負荷低減も意識した技術開発を、製造の面から提案・導入していきたいと思っております。



岡山工場製造技術課 課長  
鈴木 光正

# 環境会計

● 環境保全コスト

(単位：百万円)

活動分類		環境保全コスト			
環境会計ガイドラインの分類	クリナップの活動分類	投資		費用	
		2018年度	2019年度	2018年度	2019年度
1. 事業エリア内コスト					
① 公害防止コスト	大気汚染・騒音・振動防止活動コスト	28.1	7.0	12.0	13.1
② 地球環境保全コスト	地球温暖化防止活動など	133.9	85.0	4.7	2.1
③ 資源循環コスト	産業廃棄物再資源化活動	0.3	0.3	123.3	129.0
2. 上・下流コスト	グリーン購入・調達活動 家電リサイクル法などの対応活動 室内空気汚染物質 リターナブル梱包活動	1.2	2.1	0.4	6.8
3. 管理活動コスト	ISO14001維持活動 環境教育・訓練活動 環境指標の監視・測定活動	0.3	0.0	4.3	11.7
4. 研究開発コスト	環境配慮製品の研究・開発活動	0.0	0.0	1.2	1.5
5. 社会活動コスト	地域の清掃・奉仕活動 場内緑化維持活動 報告書の発行	5.5	3.5	6.6	14.7
6. 環境損傷対応コスト	該当する活動なし	0.0	0.0	0.0	0.0
環境保全コストの合計		169.3	97.9	152.5	178.9

● 環境保全効果

環境保全効果				
物量効果				
物量項目	単位	2018年度	2019年度	前年比
電気使用量	千KWh	23,747	23,610	-137
燃料使用量	kℓ (原油換算)	2,436	2,504	68
水道水使用量	千m <sup>3</sup>	75	91	16
CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	19,713	19,544	-169
CO <sub>2</sub> 排出原単位	t-CO <sub>2</sub> /売上高 (億円)	20.1	19.4	-0.7
再資源化処理割合	%	99	99	0
産業廃棄物排出量	t	8,185	8,385	200
産業廃棄物排出原単位	t/売上高 (億円)	8.4	8.3	-0.1
一般廃棄物 (可燃物) 排出量	t	49	45	-4
室内空気汚染物質取扱量	t	33	29	-4
PRTR取扱量	t	1,120	1,135	15
グリーン調達対象取引先	取引先件数	155	146	-9
ダンボール梱包削減量	t	407	508	101

❗は、電気のCO<sub>2</sub>排出係数は事業者別排出係数を使用しています。

● 環境保全対策に伴う経済効果

(単位：百万円)

経済効果の内容		2018年度	2019年度
1. 収益	有価物売却などにより得られた事業収入	66.7	48.7
2. 費用節減	資源の効率的利用に伴う原材料費の節減、 省エネルギーによる費用の節減	42.3	68.0
	リサイクルに伴う廃棄物処理費の低減	0.0	0.0
合計		109.0	116.7

環境会計の集計方法について

環境保全コスト …… 減価償却費：投資額の減価償却費用を費用に含めて算出しています。

複合コスト：環境保全のほか、品質改善活動、原価低減活動などのように、支出目的が複数考えられる場合は、目的基準に従い、環境保全目的で投下された費用のみを集計しています。

環境保全効果 …… 効果の対象：直接把握できる環境負荷のみを対象にして算出しました。

# 環境教育・保安防災

## ■ 環境教育・訓練

クリナップは、各部門で年間の環境教育・訓練計画を策定し、計画的に環境教育・訓練を実施しています。環境保全活動に必要な教育や訓練を社内規程で定めており、社内・社外研修へ参加し環境保全活動に取り組めるよう人材育成を実施しています。

### ● 一般的な環境教育・訓練

共通する環境保全活動に必要な教育や訓練として、省エネ、廃棄物削減、資源の有効利用、危険物取り扱い、避難訓練、消火訓練などを取り上げ定期的に実施しています。



通報訓練



避難訓練



起震車体験訓練

### ● 社内資格を与える環境教育・訓練

環境に著しく影響を及ぼすと思われる作業の従事者を「特定業務従事者」として位置づけています。特定業務従事者には必要に応じ教育や訓練を行い、社内基準を満たした者を特定業務従事者として認定しています。

また、環境マネジメントシステムを充実させパフォーマンスの向上を図るため、内部環境監査員の養成セミナーを定期的に行っています。

#### ● 特定業務の種類

- 産業廃棄物管理責任者
- 特別管理産業廃棄物管理責任者
- 危険物貯蔵・取扱業務従事者
- 環境設備管理担当者
- エネルギー管理者(電気)
- 内部環境監査員



内部環境監査員養成セミナー

## ■ 緊急事態への対応

クリナップは危険物類、廃棄物保管などの取り扱い、燃焼・汚水処理施設の運転や操作方法のミスによる環境汚染を予防するため、定期的に「緊急事態対応訓練」と称して実際の道具を使用した訓練を行っています。

今後も、施設や設備の点検を定期的に行い、事故の発生を未然に防止しながら、緊急事態発生に備えた対応訓練を継続していきます。

### ● 想定した緊急事態

- ボイラー、危険物類からの火災
- 化学物質の漏えい、地下浸透
- 廃棄物(木くず、樹脂、金属の削り粉)の飛散



緊急事態対応訓練 (化学物質の漏えい、地下浸透への対応)

# クリナップのものづくり(1)

## ■ 基本的な考え方

座卓という家族の団らんを象徴する製品から始まったクリナップは、革新的なアイデアや技術によって生活者の暮らしに寄り添ってきました。

お客さまの声に耳を傾け“キッチンの専門メーカー”として「暮らし価値を創造」していくことがクリナップの役割であり、商品開発の基本的な考え方です。

お客さまに感動していただける商品を送り続け、お客さまが笑顔になるように努力し続けます。

## ■ 業界初を目指す商品開発

クリナップは業界をリードする多くの商品を生み出してきました。1983年には日本独自の簡易施工型システムキッチン「クリンレディ」を発売。1999年に「フロアコンテナ」搭載のシステムキッチンを発売しました。これは足元のデッドスペースを有効活用し、大容量の料理道具をすっきり収納するもので、業界標準の商品形態になりました。2005年には静かさと清潔を追求した「美・サイレントシンク」を発売。2007年にはレンジフードのフィルターを自動洗浄する「洗エールレンジフード」を発売しました。

2015年にはシンク内のゴミの広がりや汚れを最小限にする「流レールシンク」を発売し、それまでのシンクの常識を一変しました。この技術は洗面化粧台の「流レールボール」やシステムキッチンの「人工大理石シンク」にも使われています。

## ■ フロアコンテナ

### ● 足元のデッドスペースを有効活用するフロアコンテナ

クリナップが最初に開発し、日本のキッチンを変えたのがこの「フロアコンテナ」です。

以前のキッチン収納は「観音開き」や「引き戸」が主流でした。ものをしまうだけでなく使い勝手のよいキャビネットとして、さまざまなキッチンアイテムを使用頻度と使う場所によって分類収納する形態が「フロアコンテナ」です。

「フロアコンテナ」は足元のデッドスペースを有効活用するために開発された収納です。置き場所に困りがちなストック品や使用頻度の低い道具をスッキリと収納できます。



背の高いストック品も立てながらたっぷり収納することができます。



フロアコンテナの下には適度なすき間があるので、キッチンマットが使用できます。



前板の下部はアルミ製なので衝撃や薬品に強く、床の掃除も気兼ねなくできます。



扉の裏側に、ラップや小瓶の収納に便利な小物ポケットを付けました。

## VOICE

### お客さま目線のものづくりで業界初の商品を開発

クリナップは業界初となる商品を数多く開発してきました。そのアイデアの軸となるのは常に「お客さま目線でのものづくり」にあります。例えば、レンジフードの自動洗浄機能やシンク内のゴミを排水口へ導くシンクなど、お客さまがあきらめている、もしくは気が付いていない不満までも解決するというこだわりがあります。

お客さま目線でのものづくりと同時に社会・環境への配慮も求められています。象徴的な商品がステンレスキャビネットです。湿気に強いステンレスを採用することでカビの発生やニオイの付着を防ぎます。見えないところまで「キレイで長持ち」を実現し、長寿命で環境にもやさしいものづくりを続けてまいります。



開発企画部デザイン課 課長 小堀 淳司

## クリナップのものづくり(2)

### ■ 機能やデザインを支える素材と加工技術

クリナップ独自の素材と加工技術が、さまざまな商品機能やデザインを支えています。なかでもステンレスの加飾技術による高度な表面処理加工により高い意匠性と耐久性を実現、キッチンの扉などに採用しています。

親水性コーティング(美コート)の技術は、清掃性に優れ、キッチンワークトップ、シンクに採用されています。

また、アクリル系人工大理石の成型技術は、キッチンのワークトップ、シンクをはじめ、システムバスルームの浴槽や床、洗面化粧台の洗面ボールに応用され、その技術は高く評価されています。

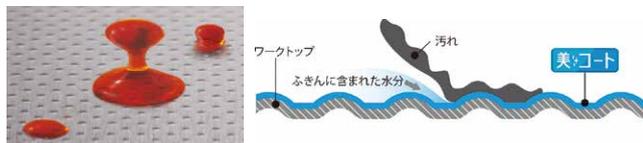
#### ● ステンレスの加飾技術によるシステムキッチンの扉



#### ● 美コート

水に馴染みやすい親

水性のセラミック系特殊コーティングが美コートです。汚れの下に水が入り込み、汚れを浮かします。油汚れ、水アカなどの落ちにくい汚れも落とすやすくなりました。



#### ● アクリル系人工大理石成型技術



象嵌(ぞうがん)のような味わいのキッチンワークトップ

洗面ボール(ティアリス)

### ■ ステンレスに対するこだわり

#### ● ステンレスにこだわる理由

クリナップがキッチンの材料としてステンレスを使う理由は、ステンレスが次のような特長を持っているからです。

特長その1 サビにくく、熱や薬品にも強い。

特長その2 お手入れ簡単。未永く使える耐久性。

特長その3 有害なホルムアルデヒドが発生しない。

特長その4 リサイクル率が80%以上と高く、地球にやさしい。

クリナップのステンレスシステムキッチンは、この特長を最大限に活かした製品です。

#### ● ステンレスキャビネット

ステンレスへのこだわりは、ワークトップやシンクだけではありません。システムキッチン、洗面化粧台のキャビネットにもステンレスを採用しています。サビに強く、長寿命、そしてエコなステンレスの特長を活かしています。



システムキッチン ステンレスキャビネット



洗面化粧台  
ステンレスキャビネット

## VOICE

### “異業種間協同物流”を継続的に推進

物流部門の環境への取り組みとして、モーダルシフト(海上輸送)、エコドライブの推進、低燃費車輛への切り替え、アイドリングストップの推進などさまざまな活動により、CO<sub>2</sub>排出量削減を継続的に推進しています。

その中で、当社設立当初より企業・業界の枠を越えた“異業種間協同物流”を継続的に推進しています。現在、40社を超えるメーカーさまからお預かりした製品を協同輸送し、積載効率向上を実現させ、全体使用台数を削減し効率的で環境にもやさしい輸送を行っております。異業種の協同輸送をさらに発展をさせ、今後も引き続きCO<sub>2</sub>排出量削減を行ってまいります。



クリナップロジスティクス株式会社  
業務部東日本事業課 係長  
小林 大二郎

## クリナップのものづくり(3)



### ● クラフツマンシップ

キッチンにとって理想的な素材であるステンレスを活かすクラフツマンシップ。生産ラインの熟練工であるクラフツマンの上質にこだわる想いが、クリナップの最高級キッチンである「CENTRO」のクラフツマンデッキシンクを生み出します。

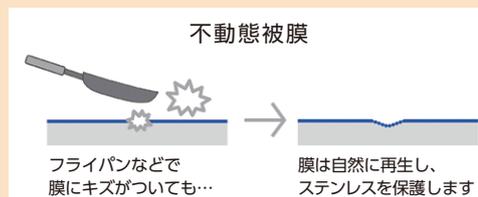
クラフツマンたちの細やかな手作り作業や長年の経験が活かされています。



### ● ステンレスがサビにくい理由

ステンレスは鉄にクロムなどの金属を混ぜ合わせた合金です。鉄だけでは腐食してしまいますが、ステンレスに含まれているクロムが空気中の酸素と結びついて「不動態被膜」というバリアーをつくります。

この「不動態被膜」によって塗装などをしなくてもサビにくい強い金属になるのです。また「不動態被膜」は表面が傷ついても自然に再生するので、ステンレスは耐久性が高い素材として評価されています。



## VOICE

### 「身近で、頼りになるあたたかい存在」でありたい

クリナップテクノサービス株式会社は、主に取付・設置、アフターサービス業務を行っています。お客さまと直接顔を合わす事、お客さまのお声を直接聞く事が多いため、「身近で、頼りになるあたたかい存在」でなければならないと考えています。取付・設置の際はこれから使用されるお客さまの事を考え、適切丁寧に取付・設置を行います。アフターサービスなど、お困り事の際は親身になってお話を聞き、解決してゆきます。

私どもが手がけたシステムキッチンで、お母さんと娘が作った料理で家族が笑顔になり、システムバスからはお父さんと息子の大きな笑い声が聞こえてくる。そんな風景を想像するだけでとても嬉しく、つい頬が緩んでしまいます。



クリナップテクノサービス株式会社  
中国四国テクノセンター  
業務課 課長  
三宅 康之

## 環境への配慮

### ■ 流レールシンク

シンクを流れる水に注目して誕生した「流レールシンク」は、調理中の野菜洗いや、後片付け時の食器洗いの水の力でシンクの中のゴミをどんどん排水口に向けて流してくれる、おどろきの新機能シンクです。

#### ● 新発想の「流レール」が生み出す水流

お料理中などに使う水が、ゴミや汚れを手前の「流レール」に集めながら流します。「流レール」に入ったゴミは水流に押されて排水口を集まるしくみです。調理中からシンクをキレイに保つ便利な機能です。



### ■ 洗エールレンジフード

レンジフードのフィルターの油汚れを落とすのは非常に大変です。洗エールレンジフードなら、ボタン1つでフィルターとファンをまるごと自動洗浄します。お掃除の悩みを解決し、快適なキッチンワークを演出します。

#### ● フィルターとファンをまるごと自動洗浄

フィルターをファンと一体化させた新構造のファンフィルターをお湯で漬け置き洗いします。お湯を掻き揚げる動作によって生じる水流を繰り返し衝突させることで汚れを除去します。そして、排水トレイに溜まった排水を捨てます。

洗エールレンジフードは、レンジフード内の汚れの約8割<sup>※1</sup>を自動で洗浄できます。

※1 当社試験条件による

#### ● 時短も、節水もできる<sup>※2</sup>

洗エールレンジフードならお掃除の時間短縮もできて毎月節水もできます。

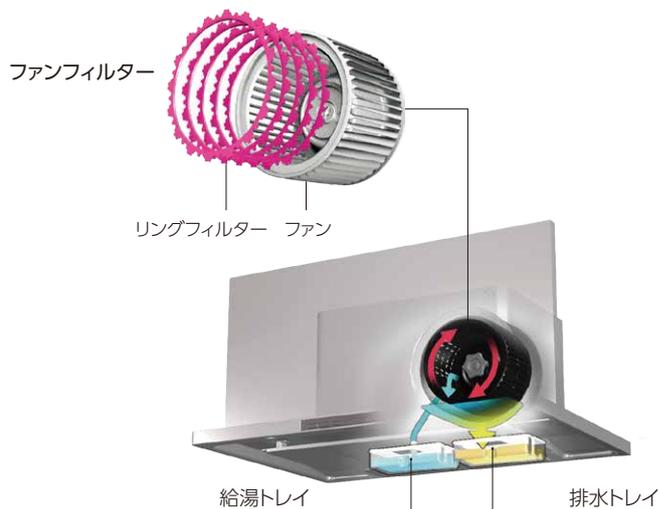
#### ● 使用水量の比較

一般的な フィルター	[手洗いの場合] 約50分×2回	約28ℓ×2回
洗エール レンジフード	[洗エールの場合] 約10分×1回 +自動洗浄約10分 <small>※お客様の作業は給湯・排水処理とボタン操作のみとなります。</small>	約0.65ℓ

2カ月で約 **90分**  
短縮

2カ月で約 **55ℓ**も  
節水

※2 当社検証比(月に一度手洗いをした場合と2カ月に一度洗エールレンジフードの自動洗浄を行った場合の実験データ)



## 健康への配慮

### ■ 床夏シャワー

#### ● 浴室への一歩目からあたたかい床夏シャワー

床に向かって一気に噴出するお湯のシャワーが、わずか1分※1で床面の温度を25℃まで上昇させて、浴室を足元からあたためます。

#### ● 浴室内の空気も同時にあたためる

床にまかれたシャワーのお湯が蒸気となって浴室全体に充満して、浴室内もあたためます。寒い時期の入浴事故原因のひとつであるヒートショック※2の心配も軽減します。

※2 暖かい部屋から急に、寒い浴室や脱衣室に入ること、血圧の急激な変化と心拍数の増加を伴い、立ちくらみや転倒、溺死に至るケースもあります。

#### ● 床夏シャワーの開発

日本国内の入浴中の死亡事故は年間約19,000人と推測されており、この10年間で約7割増加しました。その9割が65歳以上であり、超高齢化社会である日本において大きな社会問題となっています。

クリナップの床夏シャワーは、この死亡事故の原因の一つである「冷たい床」を解決するものです。



床夏シャワーの開発で、もっとも大変だったのはノズルの製作でした。実験で穴の一つからお湯を飛ばして、床に着いたところをマーキングします。次の穴でもまた同じことをします。これをノズルの何十個もある穴の数だけ繰り返すという地道な作業を行って理想のノズルに辿り着いたのです。

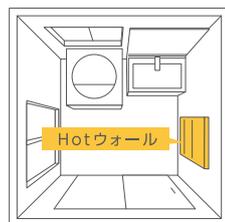
#### ※1 床夏シャワーの1分について

床夏シャワーのスイッチを押し、配管の残り水を排水後、水がお湯になってからシャワーの散水時間が1分です。配管の残り水の排水時間はご家庭の給湯器の設置条件により異なります。※ 外気温10℃、1坪用1616型の条件で試験を実施、当社商品での試験データです(当社調べ/2015年10月)。ご使用の環境、状況により上記の測定値とは異なる場合があります。

### ■ Hotウォール

室内空間の急激な温度変化による血圧の急変動で起こる「ヒートショック」は、特に冬場に増加する傾向にあります。血圧の急変動を抑えるために、居室と脱衣所・浴室の温度差を解消する商品がパネル型壁付け暖房機「Hotウォール」です。

脱衣所や洗面室に設置する暖房機として、18mmの厚みをおさえたスリムな外観と、ふく射熱による安全性により、狭い場所でも安心して使えるものです。



#### ● 入浴前の洗面室から、入浴中の浴室、

そして入浴後の洗面室まで、あたたかな空間を保ちます



#### 入浴前

##### Hotウォール

朝晩2回のタイマー予約でいつもの時間に自動でスイッチON



#### 入浴前

##### 床夏シャワー

浴室を足元からあたためる



#### 入浴中

##### 浴室まるごと保温

浴室全体を保温材で包み込み温かさをキープ



#### 入浴後

##### Hotウォール

お風呂上がりの寒さをやわらげる



特定非営利活動法人 循環型社会研究会

理事 山口民雄

クリナップのレポートを2014年版以降、継続的に拝見しています。私はこの種のレポートはガイドラインをチェックシートのように利用して作成するよりも、時代の変化を読み取り、社会の要請に耳を傾けて作成することが重要と考えます。俊敏に対応し、常に改善していくアジャイルな対応です。本レポートはこうした努力の結晶であり、この2～3年の“飛躍的改善”は高く評価できます。

トップメッセージでは、2017年版以降“私たちは何のために存在し、企業活動を続けるのか”を問い続けています。Purpose（＝存在意義、目的）は、現在、経営において重要なキーワードになってきています。それは、仕事の意味を見出した従業員は、より多くの仕事を高度にこなし飛躍的に成長することが立証されてきているからです。利益よりもPurposeを重視することはサステナビリティを獲得するためには欠かせません。IIRC（国際統合報告審議会）は「purpose beyond profit」（企業の存在意義は利益を超える）というレポートを公表し、Purposeを有する企業は収益性が高く、より時価総額が大きいことを示しています。本レポートには、さまざまな角度からトップメッセージの問いに応えるコンテンツを読み取ることができますので従業員の方も熟読し、確信にまで高めていただきたいと思います。

2020年版のレポートで注目する記載はCOVID-19のパンデミックへの対応です。本レポートでは「コロナ禍の取り組み」とのタイトルでまとめられています。特に社会の動きとともに時系列で取り組みを記載しているのは「社員とその家族、お客さま・取引先さまなど全てのステークホルダーの皆さまの健康と安全確保が最重要課題」（緑川CSR委員会委員長）の危機意識を正しく反映した記載と考えます。一方、「生活様式の変容など生活者の意識も大きく変化しており、こうした変化を受けて、企業が果たすべき責任」（トップメッセージ）や「当社を取り巻く経営環境にも一段と厳しさが増えています」（小島副社長）との問題意識も表明されています。パンデミックの終息は全く予想できませんが、来年のレポートには「経営環境変化とその対応」「リスクと機会」「新たな働き方」などについて報告されることを期待します

また、本レポートではSDGsとマテリアリティの特定、CSR調達が新たに取り上げられました。いずれもサステナビリティレポートには欠かせない社会から要請されている重要な項目です。ただ、重要な一歩を今回踏み出しましたので、今後はSDGsやマテリアリティの経営への統合、CSR調達の調査・ランク付けなどに確実に進展させることを期待します。

環境報告については、初めての第三者意見（2014年版）で「直接お話を伺い、報告書では表現しきれない担当者各位の環境負荷低減に対する熱意を心底感じた」と記述していますが、その後もこの熱意は変わらず、毎年充実した報告がされています。このことは十分評価できますが、中長期経営戦略の中でいかに環境課題に取り組んでいくかといった将来志向的な報告を行うことが求められています。「環境報告ガイドライン2018年版」はこのような動向を受けて作成されていますので、再度、確認し新たな視点による記載にチャレンジしていただきたいと思います。例えば社会報告にある「スマイル20」は「独自の差別化要因を事業上の競争力にして、長期間にわたって製品やサービスの販売から持続的に価値創造し、それを保持する全体的な仕組み」（同ガイドライン）の一つですので、環境報告にもなります。

---

循環型社会研究会：次世代に継承すべき自然生態系と調和した社会の在り方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践を行うことを目的とする市民団体。サステナビリティワークショップでは報告書のあるべき姿を研究し、提言している。

URL:<http://junkanken.com/>

# 会社概要

クリナップは、1949年、座卓を製造販売する事業から始まりました。その後、システムキッチンメーカーへの事業シフトをしてから、暮らしの中に新製品を送り出し続け、新しい暮らしを提案し、今では、システムキッチン、システムバスルーム、洗面化粧台などの水まわり住宅設備機器の専門メーカーとして事業活動を行っています。



本社外観

## 会社概要

社名 クリナップ株式会社  
 英文社名 Cleanup Corporation  
 本社所在地 〒116-8587  
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号  
 電話 03-3894-4771(大代表)  
 創業 1949年10月5日  
 会社設立 1954年10月5日  
 上場 1990年2月6日 東証2部上場  
 1991年9月2日 東証1部指定  
 資本金 132億6,734万円  
 決算期 3月(年1回)

## クリナップグループ

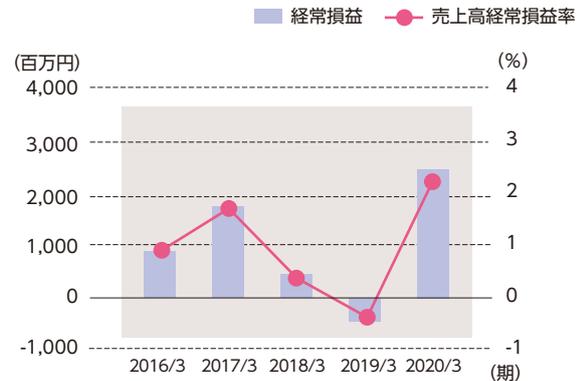
連結：本体●クリナップ株式会社、生産／関連1社●株式会社クリナップステンレス加工センター、商社／関連1社●井上興産株式会社、運輸／関連1社●クリナップロジスティクス株式会社、取付・設置・サービス／関連1社●クリナップテクノサービス株式会社、人材派遣・介護／関連1社●クリナップキャリアサービス株式会社、障がい者雇用／関連1社●クナップハートフル株式会社、情報システム／関連1社●クリナップソリューション株式会社、中国●可麗娜厨衛(上海)有限公司、可麗必斯家具(瀋陽)有限公司

## 業績の推移

### 売上高(連結)



### 経常損益 / 売上高経常損益率(連結)



### 売上構成 部門別(連結)



# クリナップ株式会社

---

ホームページアドレス

<https://cleanup.jp/>